

児童養護施設入所児童等調査結果

(平成 2 5 年 2 月 1 日現在)

厚生労働省雇用均等・児童家庭局

平成 2 7 年 1 月

目次

調査の概要	1
結果の概要	2
I 児童の現在の状況	2
1 児童の現在の年齢 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
2 児童の委託(入所)時の年齢 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
3 児童の委託(在所)期間 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
4 児童の委託(入所)経路 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
5 児童の就学状況 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
6 児童の心身の状況 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
7 児童の罹患傾向 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
8 特に指導上留意している点 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
9 学業の状況 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児、ファミリーホーム児)	
10 通学状況 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、母子施設児、ファミリーホーム児)	
II 委託(入所)時の家庭の状況	9
1 養護問題発生理由 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
2 児童の被虐待経験の有無、虐待の種類 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
3 委託(入所)時の保護者の状況 (里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	
III 家族との関係(里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児)	12
1 家族との交流関係	
2 児童の今後の見通し	
IV 里親家庭の状況	14
1 里親申込みの動機	
2 登録期間	
3 委託児童数	
4 里親の年齢	
5 里親の仕事の種類	
6 里親家庭の年間所得	
7 里親家庭の住宅所有状況	

V 母子生活支援施設入所世帯（母親）の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

- 1 児童数
- 2 入所理由及び在所期間
- 3 入所時の年齢
- 4 母子世帯になった理由
- 5 年金等の受給状況
- 6 公営住宅入居希望の有無及び現在の状況
- 7 従業上の地位及び仕事の種類
- 8 転職希望の有無
- 9 年間所得

VI 児童養護施設の年長児童の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

- 1 年長児童の就学状況
- 2 児童の生活行動経験
- 3 大切なこと
- 4 高等学校（各種学校）進学希望
- 5 大学（短大）進学希望
- 6 将来の希望（1）－職業－
- 7 将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－
- 8 友人関係

VII 児童自立支援施設の年長児童の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

- 1 年長児童の就学状況
- 2 児童の生活行動経験
- 3 大切なこと
- 4 高等学校（各種学校）進学希望
- 5 大学（短大）進学希望
- 6 将来の希望（1）－職業－
- 7 将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－
- 8 友人関係

VIII 自立援助ホームの児童の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

- 1 児童の就学状況
- 2 児童の生活行動経験
- 3 大切なこと
- 4 大学（短大）進学希望
- 5 将来の希望（1）－職業－
- 6 将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－
- 7 友人関係

1 調査の目的

この調査は、児童福祉法に基づいて、里親若しくは小規模住居型児童養育事業（以下「ファミリーホーム」という。）に委託されている児童、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び乳児院に措置されている児童、母子生活支援施設を利用している母子世帯の児童並びにその保護者、児童自立生活生活援助事業（以下「自立援助ホーム」という。）に入居している児童の実態を明らかにして、要保護児童の福祉増進のための基礎資料を得ることを目的とした。

2 調査の対象及び客体

全国の里親委託児童、児童養護施設の入所児童、情緒障害児短期治療施設の入所児童、児童自立支援施設の入所児童、乳児院の入所児童、母子生活支援施設の利用児童並びに保護者、ファミリーホーム委託児童、自立援助ホームの入居児童を対象とし、その全員を調査客体とした。

客体：里親委託児童 4,534人

児童養護施設入所児童 29,979人（内、中学3年生以上の年長児童 8,412人）

情緒障害児短期治療施設入所児童 1,235人

児童自立支援施設入所児童 1,670人（内、中学3年生以上の年長児童 810人）

乳児院入所児童 3,147人

母子生活支援施設入所世帯 3,725世帯 及び 当該児童 6,006人

ファミリーホーム委託児童 829人

自立援助ホーム入居児童 376人

3 調査の時期

平成25年2月1日

4 調査の方法

厚生労働省
雇用均等・
児童家庭局

都道府県
指定都市
中核市

児童相談所
児童養護施設
情緒障害児短期治療施設
児童自立支援施設
乳児院
母子生活支援施設
ファミリーホーム
自立援助ホーム

5 結果の集計

結果の集計は、雇用均等・児童家庭局において行った。

6 観察上の注意

この調査は、すべて全数調査であり、以下の統計数字は実数値である。

以下では、里親に委託されている児童を「里親委託児」、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設及び乳児院に措置されている児童をそれぞれ「養護施設児」「情緒障害児」「自立施設児」「乳児院児」、母子生活支援施設を利用している母子世帯の児童を「母子施設児」、ファミリーホームに委託されている児童を「ファミリーホーム児」、自立援助ホームに入居している児童を「援助ホーム児」という。

なお、構成割合は四捨五入のため、内容の合計が総数に合わない場合もある。

※ 結果については、前回調査の数字を比較の参考として掲載している。（前回調査日 平成20年2月1日）
なお、ファミリーホーム及び自立援助ホームについては、今回より調査している。

結果の概要

I 児童の現在の状況

1 児童の現在の年齢（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

調査日（平成25年2月1日）現在の年齢別児童数は表1のとおりであるが、児童数は里親委託児が4,534人（前回3,611人）、養護施設児が29,979人（前回31,593人）、情緒障害児が1,235人（前回1,104人）、自立施設児が1,670人（前回1,995人）、乳児院児が3,147人（前回3,299人）、母子施設児が6,006人（前回6,552人）、ファミリーホーム児が829人、援助ホーム児が376人であった。

また、児童の平均年齢は、里親委託児が9.9歳（前回9.3歳）、養護施設児が11.2歳（前回10.6歳）、情緒障害児が12.7歳（前回12.4歳）、自立施設児が14.1歳（前回14.2歳）、乳児院児が1.2歳（前回1.2歳）、母子施設児が7.4歳（前回7.3歳）、ファミリーホーム児が11.2歳、援助ホーム児が17.5歳であった。前回調査に比べ、里親委託児及び養護施設児の平均年齢が上昇したこと以外は大きな変化はない。

表1 現在の年齢別児童数

	児童数								構成割合 (%)							
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児	ファミリーホーム児	援助ホーム児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児	ファミリーホーム児	援助ホーム児
総数	4,534	29,979	1,235	1,670	3,147	6,006	829	376	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
男	2,291	16,108	721	1,185	1,665	3,059	443	180	50.5	53.7	58.4	71.0	52.9	50.9	53.4	47.9
女	2,234	13,685	506	481	1,467	2,931	382	196	49.3	45.6	41.0	28.8	46.6	48.8	46.1	52.1
0歳	111	2	-	-	875	222	3	-	2.4	0.0	-	-	27.8	3.7	0.4	-
1歳	140	30	-	-	1,118	366	10	-	3.1	0.1	-	-	35.5	6.1	1.2	-
2歳	203	366	-	-	783	428	20	-	4.5	1.2	-	-	24.9	7.1	2.4	-
3歳	240	933	-	-	268	461	30	-	5.3	3.1	-	-	8.5	7.7	3.6	-
4歳	214	1,299	-	-	77	476	32	-	4.7	4.3	-	-	2.4	7.9	3.9	-
5歳	246	1,417	2	-	20	476	40	-	5.4	4.7	0.2	-	0.6	7.9	4.8	-
6歳	255	1,598	4	-	5	452	32	-	5.6	5.3	0.3	-	0.2	7.5	3.9	-
7歳	228	1,556	27	-	1	413	36	-	5.0	5.2	2.2	-	0.0	6.9	4.3	-
8歳	255	1,712	48	3	-	378	46	-	5.6	5.7	3.9	0.2	-	6.3	5.5	-
9歳	240	1,910	80	7	-	363	47	-	5.3	6.4	6.5	0.4	-	6.0	5.7	-
10歳	231	2,022	114	26	-	336	45	-	5.1	6.7	9.2	1.6	-	5.6	5.4	-
11歳	264	2,101	128	46	-	330	50	-	5.8	7.0	10.4	2.8	-	5.5	6.0	-
12歳	261	2,283	171	106	-	296	59	-	5.8	7.6	13.8	6.3	-	4.9	7.1	-
13歳	249	2,242	166	254	-	233	61	-	5.5	7.5	13.4	15.2	-	3.9	7.4	-
14歳	251	2,414	175	514	-	238	72	-	5.5	8.1	14.2	30.8	-	4.0	8.7	-
15歳	261	2,471	159	569	-	200	54	11	5.8	8.2	12.9	34.1	-	3.3	6.5	2.9
16歳	290	2,130	68	80	-	138	57	74	6.4	7.1	5.5	4.8	-	2.3	6.9	19.7
17歳	311	1,861	54	40	-	114	70	103	6.9	6.2	4.4	2.4	-	1.9	8.4	27.4
18歳以上	282	1,607	39	25	-	84	65	188	6.2	5.4	3.2	1.5	-	1.4	7.8	50.0
平均年齢	9.9歳	11.2歳	12.7歳	14.1歳	1.2歳	7.4歳	11.2歳	17.5歳	・	・	・	・	・	・	・	・

注) 総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

2 児童の委託（入所）時の年齢（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

児童の委託時または入所時の年齢は、里親委託児、養護施設児及びファミリーホーム児では2歳、情緒障害児及び自立施設児では13歳、乳児院児及び母子施設児では0歳、援助ホーム児では16歳が最も多くなっている。

また、6歳未満で委託または入所した児童は、乳児院児の全部をはじめ、里親委託児で56.1%（前回59.4%）、養護施設児で52.9%（前回53.8%）、母子施設児で59.5%（前回57.8%）、ファミリーホーム児で34.6%となっている。12歳以上で入所した児童は、養護施設児で13.9%（前回12.0%）、情緒障害児で39.6%（前回39.9%）、自立施設児で88.7%（前回87.1%）となっている。

表2 委託時又は入所時の年齢別児童数

	児童数								構成割合 (%)							
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児	ファミリーホーム児	援助ホーム児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	母子施設児	ファミリーホーム児	援助ホーム児
総数	4,534	29,979	1,235	1,670	3,147	6,006	829	376	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0歳	443	55	-	-	2,461	812	34	-	9.8	0.2	-	-	78.2	13.5	4.1	-
1歳	474	849	-	-	530	642	38	-	10.5	2.8	-	-	16.8	10.7	4.6	-
2歳	666	6,408	-	-	127	608	68	-	14.7	21.4	-	-	4.0	10.1	8.2	-
3歳	440	3,745	-	-	24	544	59	-	9.7	12.5	-	-	0.8	9.1	7.1	-
4歳	280	2,620	1	-	2	531	40	-	6.2	8.7	0.1	-	0.1	8.8	4.8	-
5歳	241	2,187	6	-	1	437	48	-	5.3	7.3	0.5	-	0.0	7.3	5.8	-
6歳	270	2,171	51	1	-	382	50	-	6.0	7.2	4.1	0.1	-	6.4	6.0	-
7歳	195	1,814	101	1	-	344	48	-	4.3	6.1	8.2	0.1	-	5.7	5.8	-
8歳	161	1,702	133	7	-	308	43	-	3.6	5.7	10.8	0.4	-	5.1	5.2	-
9歳	154	1,510	150	29	-	297	47	-	3.4	5.0	12.1	1.7	-	4.9	5.7	-
10歳	143	1,402	151	42	-	268	35	-	3.2	4.7	12.2	2.5	-	4.5	4.2	-
11歳	139	1,324	151	107	-	223	48	-	3.1	4.4	12.2	6.4	-	3.7	5.8	-
12歳	174	1,156	162	219	-	179	33	-	3.8	3.9	13.1	13.1	-	3.0	4.0	-
13歳	149	1,126	165	564	-	152	53	-	3.3	3.8	13.4	33.8	-	2.5	6.4	-
14歳	146	909	120	511	-	113	48	-	3.2	3.0	9.7	30.6	-	1.9	5.8	-
15歳	203	619	38	142	-	80	62	51	4.5	2.1	3.1	8.5	-	1.3	7.5	13.6
16歳	152	241	-	33	-	45	47	137	3.4	0.8	-	2.0	-	0.7	5.7	36.4
17歳	79	92	4	11	-	27	23	80	1.7	0.3	0.3	0.7	-	0.4	2.8	21.3
18歳以上	12	14	-	2	-	7	5	101	0.3	0.0	-	0.1	-	0.1	0.6	26.9
平均年齢	6.3歳	6.2歳	10.6歳	13.1歳	0.3歳	5.2歳	8.4歳	17.0歳	・	・	・	・	・	・	・	・

注) 総数には、年齢不詳を含む。

3 児童の委託（在所）期間（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

児童の委託期間または在所期間は、いずれの場合も「1年未満」が最も多く、養護施設児、情緒障害児、乳児院児、援助ホーム児は期間が長くなるに従い児童数が漸減している。

また平均委託（在所）期間は、里親委託児 3.9年（前回 3.9年）、養護施設児 4.9年（前回 4.6年）、情緒障害児 2.1年（前回 1.9年）、自立施設児 1.0年（前回 1.1年）、乳児院児 1.2年（前回 1.1年）、ファミリーホーム児 2.9年、援助ホーム児 0.9年となっている。

表3 委託期間又は在所期間別児童数

	児 童 数							構成割合 (%)						
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	ファミリーホーム児	援助ホーム児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	ファミリーホーム児	援助ホーム児
総数	4,534	29,979	1,235	1,670	3,147	829	376	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1年未満	1,121	4,637	417	996	1,649	240	255	24.7	15.5	33.8	59.6	52.4	29.0	67.8
1年以上2年未満	858	4,042	317	511	910	178	86	18.9	13.5	25.7	30.6	28.9	21.5	22.9
2年以上3年未満	491	3,415	214	112	427	179	19	10.8	11.4	17.3	6.7	13.6	21.6	5.1
3年以上4年未満	381	2,748	106	26	113	85	4	8.4	9.2	8.6	1.6	3.6	10.3	1.1
4年以上5年未満	309	2,567	60	15	36	14	-	6.8	8.6	4.9	0.9	1.1	1.7	-
5年以上6年未満	247	2,166	46	2	8	16	-	5.4	7.2	3.7	0.1	0.3	1.9	-
6年以上7年未満	181	1,824	45	3	1	19	-	4.0	6.1	3.6	0.2	0.0	2.3	-
7年以上8年未満	195	1,586	9	1	1	18	-	4.3	5.3	0.7	0.1	0.0	2.2	-
8年以上9年未満	166	1,469	4	-	-	23	-	3.7	4.9	0.3	-	-	2.8	-
9年以上10年未満	155	1,222	4	-	-	16	-	3.4	4.1	0.3	-	-	1.9	-
10年以上11年未満	123	1,064	-	-	-	10	-	2.7	3.5	-	-	-	1.2	-
11年以上12年未満	86	978	-	-	-	15	-	1.9	3.3	-	-	-	1.8	-
12年以上	204	2,105	-	-	-	16	-	4.5	7.0	-	-	-	1.9	-
平均期間	3.9年	4.9年	2.1年	1.0年	1.2年	2.9年	0.9年	・	・	・	・	・	・	・

注) 総数には、期間不詳を含む。

「ファミリーホーム児」委託期間は、ファミリーホーム制度創設以前における里親委託期間を含む。

4 児童の委託（入所）経路（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

児童の委託経路または入所経路をみると、里親委託児では「家庭から」が47.0%（前回44.3%）、「乳児院から」が26.7%（前回27.0%）、「児童養護施設から」が16.3%（前回19.7%）と多い。

養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児でも「家庭から」が、それぞれ68.2%（前回71.5%）、76.0%（前回79.8%）、61.0%（前回63.5%）、76.1%（前回86.2%）、42.9%、47.1%と最も多い。

また、自立施設児では、家庭裁判所からの決定によるものが18.3%（前回17.4%）となっている。

表4 委託経路又は入所経路別児童数

	総数	家庭から	乳児院から	児童養護施設から	児童自立支援施設から	他の児童福祉施設から	里親家庭から	家庭裁判所から	ファミリーホームから	単身から	その他から	不詳
里親委託児	4,534 100.0%	2,131 47.0%	1,209 26.7%	741 16.3%	*	68 1.5%	186 4.1%	*	14 0.3%	*	155 3.4%	30 0.7%
養護施設児	29,979 100.0%	20,436 68.2%	6,558 21.9%	875 2.9%	*	886 3.0%	593 2.0%	20 0.1%	22 0.1%	*	421 1.4%	168 0.6%
情緒障害児	1,235 100.0%	939 76.0%	2 0.2%	*	*	204 16.5%	19 1.5%	*	3 0.2%	*	61 4.9%	7 0.6%
自立施設児	1,670 100.0%	1,018 61.0%	*	236 14.1%	*	49 2.9%	26 1.6%	306 18.3%	6 0.4%	*	18 1.1%	11 0.7%
乳児院児	3,147 100.0%	2,396 76.1%	75 2.4%	*	*	*	24 0.8%	*	2 0.1%	*	636 20.2%	14 0.4%
ファミリーホーム児	829 100.0%	356 42.9%	92 11.1%	128 15.4%	*	34 4.1%	168 20.3%	*	3 0.4%	*	46 5.5%	2 0.2%
援助ホーム児	376 100.0%	177 47.1%	*	89 23.7%	25 6.6%	11 2.9%	9 2.4%	*	1 0.3%	24 6.4%	38 10.1%	2 0.5%

注）*は、調査項目としていない。

「家庭裁判所から」は、入所前に生活していた場所に関係なく、保護処分により入所したことをいう。

5 児童の就学状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

児童の就学状況をみると、里親委託児及び母子施設児では「就学前」が最も多く、それぞれ30.3%（前回34.0%）、43.7%（前回42.1%）となっており、養護施設児、情緒障害児及び自立施設児では「中学校」が最も多く、それぞれ23.7%（前回22.7%）、41.4%（前回40.6%）、80.5%（前回74.0%）となっている。

また、ファミリーホーム児及び援助ホーム児では「中学卒」が最も多く、それぞれ24.4%、81.9%となっている。

表5 就学状況別児童数

	総数	就学前	小学校 低学年 (1~3)	小学校 高学年 (4~6)	中学校	中学卒			高校卒			不詳
						公立 高校	私立 高校	その他	大学 ・短大	就職	その他	
里親委託児	4,534 100.0%	1,375 30.3%	724 16.0%	744 16.4%	767 16.9%	573 12.6%	226 5.0%	61 1.3%	15 0.3%	10 0.2%	34 0.7%	5 0.1%
養護施設児	29,979 100.0%	5,424 18.1%	5,119 17.1%	6,332 21.1%	7,100 23.7%	4,370 14.6%	1,078 3.6%	364 1.2%	33 0.1%	58 0.2%	55 0.2%	46 0.2%
情緒障害児	1,235 100.0%	4 0.3%	141 11.4%	404 32.7%	511 41.4%	120 9.7%	28 2.3%	23 1.9%	1 0.1%	-	3 0.2%	-
自立施設児	1,670 100.0%	-	6 0.4%	158 9.5%	1,345 80.5%	58 3.5%	11 0.7%	89 5.3%	-	-	3 0.2%	-
母子施設児	6,006 100.0%	2,624 43.7%	1,174 19.5%	961 16.0%	700 11.7%	222 3.7%	74 1.2%	51 0.8%	2 0.0%	1 0.0%	5 0.1%	192 3.2%
ファミリーホーム児	829 100.0%	161 19.4%	125 15.1%	154 18.6%	180 21.7%	129 15.6%	52 6.3%	21 2.5%	1 0.1%	4 0.5%	2 0.2%	-
援助ホーム児	376 100.0%	-	-	-	6 1.6%	62 16.5%	26 6.9%	220 58.5%	2 0.5%	37 9.8%	18 4.8%	5 1.3%

6 児童の心身の状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

児童の心身の状況については、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児及び母子施設児において「障害等あり」の割合が、それぞれ20.6%（前回18.0%）、28.5%（前回23.4%）、72.9%（前回70.7%）、46.7%（前回35.4%）、28.2%（前回32.3%）、17.6%（前回16.3%）となっており、乳児院児を除き前回調査より増えている。また、ファミリーホーム児及び援助ホーム児の「障害等あり」の割合は、それぞれ37.9%、37.0%となっている。

表6 心身の状況別児童数

	総数	障害等あり	障害等あり内訳（重複回答）									
			身体虚弱	肢体不自由	視聴覚障害	言語障害	知的障害	てんかん	ADHD	LD	広汎性発達障害	その他の障害等
里親委託児	4,534	933	76	27	35	33	359	46	149	35	200	224
	100.0%	20.6%	1.7%	0.6%	0.8%	0.7%	7.9%	1.0%	3.3%	0.8%	4.4%	4.9%
養護施設児	29,979	8,558	584	101	221	298	3,685	369	1,384	352	1,576	2,319
	100.0%	28.5%	1.9%	0.3%	0.7%	1.0%	12.3%	1.2%	4.6%	1.2%	5.3%	7.7%
情緒障害児	1,235	900	7	3	3	6	173	17	243	23	367	442
	100.0%	72.9%	0.6%	0.2%	0.2%	0.5%	14.0%	1.4%	19.7%	1.9%	29.7%	35.8%
自立施設児	1,670	780	16	2	4	2	225	12	255	36	246	230
	100.0%	46.7%	1.0%	0.1%	0.2%	0.1%	13.5%	0.7%	15.3%	2.2%	14.7%	13.8%
乳児院児	3,147	889	526	90	87	83	182	67	5	1	41	235
	100.0%	28.2%	16.7%	2.9%	2.8%	2.6%	5.8%	2.1%	0.2%	0.0%	1.3%	7.5%
母子施設児	6,006	1,056	116	20	24	65	268	38	123	65	225	364
	100.0%	17.6%	1.9%	0.3%	0.4%	1.1%	4.5%	0.6%	2.0%	1.1%	3.7%	6.1%
ファミリーホーム児	829	314	24	7	11	17	114	11	59	34	85	119
	100.0%	37.9%	2.9%	0.8%	1.3%	2.1%	13.8%	1.3%	7.1%	4.1%	10.3%	14.4%
援助ホーム児	376	139	8	-	1	-	37	3	24	5	24	69
	100.0%	37.0%	2.1%	-	0.3%	-	9.8%	0.8%	6.4%	1.3%	6.4%	18.4%

7 児童の罹患傾向（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

児童の罹患傾向をみると、「罹患傾向あり」が里親委託児で14.1%（前回14.0%）、養護施設児で20.8%（前回20.0%）、情緒障害児で18.1%（前回23.6%）、自立施設児で18.3%（前回20.8%）、乳児院児で65.3%（前回61.5%）、母子施設児で34.2%（前回32.4%）となっている。また、ファミリーホーム児及び援助ホーム児の「罹患傾向あり」の割合は、それぞれ29.8%、30.6%となっている。

表7 罹患傾向別児童数

	総数	罹患傾向あり	罹患状況内訳（重複回答）					その他
			ひきつけたことがある	下痢をしやすい	よく熱をだす	風邪をひきやすい	湿疹が出やすい	
里親委託児	4,534	638	36	35	84	194	119	299
	100.0%	14.1%	0.8%	0.8%	1.9%	4.3%	2.6%	6.6%
養護施設児	29,979	6,227	361	442	736	1,720	1,328	2,709
	100.0%	20.8%	1.2%	1.5%	2.5%	5.7%	4.4%	9.0%
情緒障害児	1,235	224	5	31	13	41	55	107
	100.0%	18.1%	0.4%	2.5%	1.1%	3.3%	4.5%	8.7%
自立施設児	1,670	305	12	44	23	37	71	154
	100.0%	18.3%	0.7%	2.6%	1.4%	2.2%	4.3%	9.2%
乳児院児	3,147	2,056	193	287	511	924	617	663
	100.0%	65.3%	6.1%	9.1%	16.2%	29.4%	19.6%	21.1%
母子施設児	6,006	2,054	164	199	404	946	283	711
	100.0%	34.2%	2.7%	3.3%	6.7%	15.8%	4.7%	11.8%
ファミリーホーム児	829	247	16	24	32	79	57	92
	100.0%	29.8%	1.9%	2.9%	3.9%	9.5%	6.9%	11.1%
援助ホーム児	376	115	3	12	9	30	18	63
	100.0%	30.6%	0.8%	3.2%	2.4%	8.0%	4.8%	16.8%

8 特に指導上留意している点（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

「心の安定」を留意点としてあげているのは共通している傾向であるが、里親委託児では次いで「里親との関係」39.3%、養護施設児では「家族との関係」56.1%、情緒障害児では一番が「友人との関係」67.4%、次いで「家族との関係」63.3%、自立施設児では一番が「社会規範」69.8%、母子施設児では「家族との関係」45.4%、ファミリーホーム児では「しつけ」46.7%、援助ホーム児では一番が「就職及び職業の安定」58.2%となっている。

表8-1 特に指導上留意している点別児童数

	総数	特に留意している点あり	留意点（重複回答）							
			心の安定	友人との関係	家族との関係	学習への興味・関心	しつけ	心理的対応	社会規範	職員（里親・養育者）との関係
里親委託児	4,534 100.0%	4,153 91.6%	2,250 49.6%	865 19.1%	894 19.7%	1,029 22.7%	1,261 27.8%	318 7.0%	557 12.3%	1,780 39.3%
養護施設児	29,979 100.0%	29,711 99.1%	20,052 66.9%	12,308 41.1%	16,818 56.1%	10,516 35.1%	9,835 32.8%	6,048 20.2%	7,583 25.3%	11,342 37.8%
情緒障害児	1,235 100.0%	1,235 100.0%	753 61.0%	832 67.4%	782 63.3%	388 31.4%	241 19.5%	650 52.6%	411 33.3%	460 37.2%
自立施設児	1,670 100.0%	1,669 99.9%	1,074 64.3%	877 52.5%	953 57.1%	547 32.8%	417 25.0%	326 19.5%	1,166 69.8%	636 38.1%
母子施設児	6,006 100.0%	5,351 89.1%	3,230 53.8%	2,101 35.0%	2,726 45.4%	1,680 28.0%	1,991 33.2%	872 14.5%	771 12.8%	1,065 17.7%
ファミリーホーム児	829 100.0%	812 97.9%	547 66.0%	280 33.8%	273 32.9%	327 39.4%	387 46.7%	172 20.7%	216 26.1%	258 31.1%
援助ホーム児	376 100.0%	372 98.9%	206 54.8%	109 29.0%	104 27.7%	49 13.0%	59 15.7%	80 21.3%	150 39.9%	110 29.3%

（表8-2に続く）

表8-2 特に指導上留意している点別児童数

	留意点（重複回答）									
	思いやり	将来設計	男女交際	自主性・積極性	自己表現力	文化・生活習慣	経済観念	医療的対応	就職及び職業の安定	行動上の問題
里親委託児	766 16.9%	739 16.3%	150 3.3%	542 12.0%	576 12.7%	431 9.5%	275 6.1%	291 6.4%	178 3.9%	330 7.3%
養護施設児	10,226 34.1%	5,591 18.6%	2,864 9.6%	6,500 21.7%	12,188 40.7%	7,054 23.5%	3,608 12.0%	2,962 9.9%	1,570 5.2%	3,788 12.6%
情緒障害児	187 15.1%	183 14.8%	166 13.4%	262 21.2%	529 42.8%	246 19.9%	83 6.7%	294 23.8%	52 4.2%	324 26.2%
自立施設児	478 28.6%	287 17.2%	197 11.8%	391 23.4%	746 44.7%	419 25.1%	107 6.4%	258 15.4%	71 4.3%	549 32.9%
母子施設児	1,696 28.2%	391 6.5%	121 2.0%	945 15.7%	1,457 24.3%	1,063 17.7%	214 3.6%	255 4.2%	79 1.3%	594 9.9%
ファミリーホーム児	291 35.1%	215 25.9%	97 11.7%	218 26.3%	261 31.5%	206 24.8%	148 17.9%	111 13.4%	66 8.0%	110 13.3%
援助ホーム児	41 10.9%	165 43.9%	115 30.6%	102 27.1%	104 27.7%	91 24.2%	176 46.8%	53 14.1%	219 58.2%	71 18.9%

9 学業の状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、母子施設児、ファミリーホーム児）

学業の状況については、里親委託児、養護施設児及びファミリーホーム児では「特に問題なし」が最も高く、その割合はそれぞれ47.1%（前回43.9%）、48.9%（前回47.8%）、41.7%となっているが、情緒障害児及び自立施設児では「遅れがある」が最も高く、その割合はそれぞれ51.5%（前回53.4%）、59.3%（前回64.0%）となっている。

表9 学業の状況別児童数

	総数	すぐれている	特に問題なし	遅れがある	不詳
里親委託児	4,534 100.0%	283 6.2%	2,135 47.1%	699 15.4%	1,417 31.3%
養護施設児	29,979 100.0%	1,322 4.4%	14,659 48.9%	8,447 28.2%	5,551 18.5%
情緒障害児	1,235 100.0%	42 3.4%	550 44.5%	636 51.5%	7 0.6%
自立施設児	1,670 100.0%	34 2.0%	643 38.5%	991 59.3%	2 0.1%
母子施設児	6,006 100.0%	143 2.4%	2,026 33.7%	967 16.1%	2,870 47.8%
ファミリーホーム児	829 100.0%	53 6.4%	346 41.7%	257 31.0%	173 20.9%

10 通学状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、母子施設児、ファミリーホーム児）

通学状況については、里親委託児、養護施設児、情緒障害児及びファミリーホーム児では「普通に通学」が最も多く、その割合はそれぞれ65.0%（前回61.9%）、77.1%（前回75.8%）、91.9%（前回89.6%）、73.5%となっている。

表10 通学状況別児童数

	総数	普通に通学	欠席しがち	不詳
里親委託児	4,534 100.0%	2,947 65.0%	160 3.5%	1,427 31.5%
養護施設児	29,979 100.0%	23,113 77.1%	1,292 4.3%	5,574 18.6%
情緒障害児	1,235 100.0%	1,135 91.9%	87 7.0%	13 1.1%
母子施設児	6,006 100.0%	2,767 46.1%	369 6.1%	2,870 47.8%
ファミリーホーム児	829 100.0%	609 73.5%	44 5.3%	176 21.2%

II 委託（入所）時の家庭の状況

1 養護問題発生理由（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

養護問題発生理由の主なものは、里親委託児の場合には「養育拒否」16.5%（前回16.0%）、「父又は母の死亡」11.4%（前回6.6%）であり、養護施設児の場合には「父又は母の虐待・酷使」18.1%（前回14.4%）、「父又は母の放任・怠だ」14.7%（前回13.8%）、乳児院の場合には「父又は母の精神疾患等」22.2%（前回19.1%）、「父又は母の放任・怠だ」11.1%（前回8.8%）となっている。

情緒障害児の場合には「父又は母の虐待・酷使」30.4%（前回26.5%）、「父又は母の精神疾患等」15.2%（前回13.8%）であり、自立施設児の場合には「父又は母の放任・怠だ」20.7%（前回22.3%）、「父又は母の虐待・酷使」16.8%（前回17.0%）、ファミリーホーム児の場合には「父又は母の虐待・酷使」15.8%、「父又は母の放任・怠だ」11.7%であり、援助ホーム児の場合には「父又は母の虐待・酷使」21.3%、「児童の問題による監護困難」19.7%となっている。

なお、一般的に「虐待」とされる「放任・怠だ」「虐待・酷使」「棄児」「養育拒否」を合計すると、里親委託児は全体の37.4%（前回36.7%）、養護施設児37.9%（前回33.1%）、情緒障害児50.0%（前回47.9%）、自立施設児41.7%（前回45.8%）、乳児院児27.1%（前回27.2%）、ファミリーホーム児38.4%、援助ホーム児35.6%となっており、里親委託児、養護施設児及び情緒障害児では、前回調査に比し虐待を理由とした委託及び入所が増えている。

表11 養護問題発生理由別児童数

	児童数							構成割合 (%)						
	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	ファミリーホーム児	援助ホーム児	里親委託児	養護施設児	情緒障害児	自立施設児	乳児院児	ファミリーホーム児	援助ホーム児
総数	4,534	29,979	1,235	1,670	3,147	829	376	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
父の死亡	113	142	6	14	2	8	2	2.5	0.5	0.5	0.8	0.1	1.0	0.5
母の死亡	403	521	13	17	24	22	8	8.9	1.7	1.1	1.0	0.8	2.7	2.1
父の行方不明	99	141	1	6	4	6	1	2.2	0.5	0.1	0.4	0.1	0.7	0.3
母の行方不明	388	1,138	10	17	79	36	9	8.6	3.8	0.8	1.0	2.5	4.3	2.4
父母の離婚	97	872	33	133	56	50	18	2.1	2.9	2.7	8.0	1.8	6.0	4.8
両親の未婚	*	*	*	*	195	*	*	*	*	*	*	6.2	*	*
父母の不和	18	233	18	30	41	8	2	0.4	0.8	1.5	1.8	1.3	1.0	0.5
父の拘禁	47	419	4	9	18	8	3	1.0	1.4	0.3	0.5	0.6	1.0	0.8
母の拘禁	130	1,037	14	26	121	31	2	2.9	3.5	1.1	1.6	3.8	3.7	0.5
父の入院	27	180	-	2	7	7	1	0.6	0.6	-	0.1	0.2	0.8	0.3
母の入院	131	1,124	9	9	96	32	3	2.9	3.7	0.7	0.5	3.1	3.9	0.8
家族の疾病の付添	*	*	*	*	11	*	*	*	*	*	*	0.3	*	*
次子出産	*	*	*	*	19	*	*	*	*	*	*	0.6	*	*
父の就労	44	963	11	22	11	10	1	1.0	3.2	0.9	1.3	0.3	1.2	0.3
母の就労	109	767	12	65	123	16	-	2.4	2.6	1.0	3.9	3.9	1.9	-
父の精神疾患等	16	178	9	17	13	-	2	0.4	0.6	0.7	1.0	0.4	-	0.5
母の精神疾患等	356	3,519	179	127	686	94	33	7.9	11.7	14.5	7.6	21.8	11.3	8.8
父の放任・怠だ	46	537	27	77	9	13	8	1.0	1.8	2.2	4.6	0.3	1.6	2.1
母の放任・怠だ	431	3,878	133	268	340	84	17	9.5	12.9	10.8	16.0	10.8	10.1	4.5
父の虐待・酷使	124	2,183	161	152	82	58	45	2.7	7.3	13.0	9.1	2.6	7.0	12.0
母の虐待・酷使	249	3,228	214	129	186	73	35	5.5	10.8	17.3	7.7	5.9	8.8	9.3
棄児	94	124	5	6	18	19	1	2.1	0.4	0.4	0.4	0.6	2.3	0.3
養育拒否	750	1,427	78	65	217	71	28	16.5	4.8	6.3	3.9	6.9	8.6	7.4
破産等の経済的理由	249	1,762	12	13	146	28	10	5.5	5.9	1.0	0.8	4.6	3.4	2.7
児童の問題による監護困難	69	1,130	*	*	19	33	74	1.5	3.8	*	*	0.6	4.0	19.7
その他	392	3,619	156	172	547	60	57	8.6	12.1	12.6	10.3	17.4	7.2	15.2
特になし	*	*	91	202	*	*	*	*	*	7.4	12.1	*	*	*
不詳	152	857	39	92	77	62	16	3.4	2.9	3.2	5.5	2.4	7.5	4.3

注) *は、調査項目としていない。

2 児童の被虐待経験の有無、虐待の種類（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、母子施設児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

「虐待経験あり」の割合をみると、里親委託児で31.1%（前回31.5%）、養護施設児で59.5%（前回53.4%）、情緒障害児で71.2%（前回71.6%）、自立施設児で58.5%（前回65.9%）、乳児院児で35.5%（前回32.3%）、母子施設児で50.1%（前回41.4%）、ファミリーホーム児55.4%、援助ホーム児65.7%となっている。

また、里親委託児、養護施設児、乳児院児及びファミリーホーム児ではネグレクトが最も多く、その割合は68.5%（前回67.1%）、63.7%（前回66.2%）、73.9%（前回71.4%）、63.6%である。情緒障害児、自立施設児及び援助ホーム児では身体的虐待が最も多く、その割合は64.7%（前回60.5%）、60.5%（前回59.5%）、53.0%である。母子施設児では心理的虐待が最も多く、その割合は78.0%（前回73.8%）である。

表 1 2 被虐待経験の有無及び虐待の種類

	総 数	虐待経験 あ り	虐待経験の種類（複数回答）				虐待経験 な し	不 明
			身体的虐待	性的虐待	ネグレクト	心理的虐待		
里親委託児	4,534 100.0%	1,409 31.1%	416 29.5%	71 5.0%	965 68.5%	242 17.2%	2,798 61.7%	304 6.7%
養護施設児	29,979 100.0%	17,850 59.5%	7,498 42.0%	732 4.1%	11,367 63.7%	3,753 21.0%	10,610 35.4%	1,481 4.9%
情緒障害児	1,235 100.0%	879 71.2%	569 64.7%	70 8.0%	386 43.9%	275 31.3%	318 25.7%	38 3.1%
自立施設児	1,670 100.0%	977 58.5%	590 60.5%	45 4.6%	525 53.8%	287 29.4%	589 35.3%	104 6.2%
乳児院児	3,147 100.0%	1,117 35.5%	287 25.7%	1 0.1%	825 73.9%	94 8.4%	1,942 61.7%	85 2.7%
母子施設児	6,006 100.0%	3,009 50.1%	1,037 34.5%	102 3.4%	617 20.5%	2,346 78.0%	2,762 46.0%	235 3.9%
ファミリーホーム児	829 100.0%	459 55.4%	189 41.2%	45 9.8%	292 63.6%	134 29.2%	304 36.7%	66 8.0%
援助ホーム児	376 100.0%	247 65.7%	131 53.0%	38 15.4%	124 50.2%	96 38.9%	89 23.7%	38 10.1%

注）総数には、不詳を含む。

3 委託（入所）時の保護者の状況（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

委託（入所）時に「両親又は一人親あり」の割合をみると、里親委託児で52.2%（前回67.7%）、養護施設児で81.7%（前回83.2%）、情緒障害児で88.0%（前回87.3%）、自立施設児で86.5%（前回87.7%）、乳児院児で96.6%（前回89.0%）、ファミリーホーム児で67.3%、援助ホーム児で71.5%となっており、里親委託児で最も低くなっている。

「両親又は一人親あり」の児童についてみると、最も割合の多い保護者は、里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、ファミリーホーム児及び援助ホーム児が「実母のみ」でそれぞれ59.0%（前回59.0%）、45.4%（前回42.5%）、42.3%（前回46.5%）、46.7%（前回45.1%）、50.0%、34.2%であり、乳児院児が「実父母有」で52.9%（前回52.4%）となっている。

「両親ともいない・不明」の児童についてみると、祖父母が養育を行っている割合が高い。

表 1 3-1 委託（入所）時の保護者の状況別児童数

	総 数	両親又は一人親	両親ともいない	両親とも不明	不 詳
里親委託児	4,534 100.0%	2,369 52.2%	1,924 42.4%	183 4.0%	58 1.3%
養護施設児	29,979 100.0%	24,489 81.7%	4,790 16.0%	517 1.7%	183 0.6%
情緒障害児	1,235 100.0%	1,087 88.0%	131 10.6%	12 1.0%	5 0.4%
自立施設児	1,670 100.0%	1,444 86.5%	197 11.8%	16 1.0%	13 0.8%
乳児院児	3,147 100.0%	3,040 96.6%	87 2.8%	19 0.6%	1 0.0%
ファミリーホーム児	829 100.0%	558 67.3%	222 26.8%	31 3.7%	18 2.2%
援助ホーム児	376 100.0%	269 71.5%	94 25.0%	9 2.4%	4 1.1%

表 1 3-2 両親又は一人親ありの保護者の状況別児童数

	総数	実父母有	実父のみ	実母のみ	実父養母	養父実母	養父養母	養父のみ	養母のみ	不詳
里親委託児	2,369 100.0%	519 21.9%	283 11.9%	1,398 59.0%	24 1.0%	122 5.1%	6 0.3%	8 0.3%	7 0.3%	2 0.1%
養護施設児	24,489 100.0%	6,612 27.0%	3,433 14.0%	11,113 45.4%	719 2.9%	2,350 9.6%	65 0.3%	95 0.4%	76 0.3%	26 0.1%
情緒障害児	1,087 100.0%	272 25.0%	103 9.5%	460 42.3%	54 5.0%	178 16.4%	6 0.6%	5 0.5%	8 0.7%	1 0.1%
自立施設児	1,444 100.0%	322 22.3%	169 11.7%	675 46.7%	49 3.4%	214 14.8%	5 0.3%	3 0.2%	7 0.5%	- -
乳児院児	3,040 100.0%	1,609 52.9%	74 2.4%	1,307 43.0%	1 0.0%	44 1.4%	2 0.1%	1 0.0%	- -	2 0.1%
ファミリーホーム児	558 100.0%	116 20.8%	88 15.8%	279 50.0%	19 3.4%	52 9.3%	- -	2 0.4%	2 0.4%	- -
援助ホーム児	269 100.0%	64 23.8%	34 12.6%	92 34.2%	13 4.8%	59 21.9%	1 0.4%	4 1.5%	2 0.7%	- -

注) 横軸は、保護者の状況。

表 1 3-3 両親ともいない・不明の保護者の状況別児童数

	総 数	祖父母	養父母 の 親	兄・姉	義 兄 義 姉	伯(叔) 父 母	義 伯 (叔) 父 母	里 親	その他	な し	不 明	不 詳
里親委託児	2,107 100.0%	513 24.3%	- -	25 1.2%	1 0.0%	141 6.7%	8 0.4%	122 5.8%	1,074 51.0%	118 5.6%	68 3.2%	37 1.8%
養護施設児	5,307 100.0%	759 14.3%	15 0.3%	117 2.2%	17 0.3%	181 3.4%	12 0.2%	284 5.4%	3,457 65.1%	283 5.3%	113 2.1%	69 1.3%
情緒障害児	143 100.0%	36 25.2%	- -	3 2.1%	- -	7 4.9%	- -	10 7.0%	68 47.6%	13 9.1%	4 2.8%	2 1.4%
自立施設児	213 100.0%	48 22.5%	- -	6 2.8%	- -	7 3.3%	- -	18 8.5%	108 50.7%	18 8.5%	6 2.8%	2 0.9%
乳児院児	106 100.0%	22 20.8%	- -	4 3.8%	- -	3 2.8%	- -	14 13.2%	43 40.6%	5 4.7%	14 13.2%	1 0.9%
ファミリーホーム児	253 100.0%	32 12.6%	1 0.4%	10 4.0%	- -	5 2.0%	- -	75 29.6%	91 36.0%	22 8.7%	17 6.7%	- -
援助ホーム児	103 100.0%	13 12.6%	- -	4 3.9%	1 1.0%	2 1.9%	2 1.9%	5 4.9%	57 55.3%	13 12.6%	6 5.8%	- -

注) 横軸は、保護者の状況。

Ⅲ 家族との関係（里親委託児、養護施設児、情緒障害児、自立施設児、乳児院児、ファミリーホーム児、援助ホーム児）

1 家族との交流関係

家族との交流関係について「交流なし」の割合は、里親委託児で72.4%（前回71.9%）、養護施設児で18.0%（前回16.1%）、情緒障害児で14.8%（前回9.0%）、自立施設児で10.8%（前回7.3%）、乳児院児で19.4%（前回20.2%）、ファミリーホーム児で40.5%、援助ホーム児で41.2%となっており、特に、里親委託児で「交流なし」が高くなっている。

施設入所児童では「交流あり」のうち「帰省」の割合が高く、養護施設児で45.9%（前回52.7%）、情緒障害児で55.4%（前回69.0%）、自立施設児で49.8%（前回45.3%）となっているが、乳児院児では「面会」の割合が多く、54.1%（前回51.3%）となっている。

表14-1 家族との交流関係別児童数

	総数	交流あり			交流なし	不詳
		帰省	面会	電話・手紙連絡		
里親委託児	4,534 100.0%	336 7.4%	655 14.4%	241 5.3%	3,284 72.4%	18 0.4%
養護施設児	29,979 100.0%	13,772 45.9%	6,935 23.1%	3,864 12.9%	5,396 18.0%	12 0.0%
情緒障害児	1,235 100.0%	684 55.4%	259 21.0%	106 8.6%	183 14.8%	3 0.2%
自立施設児	1,670 100.0%	832 49.8%	420 25.1%	237 14.2%	180 10.8%	1 0.1%
乳児院児	3,147 100.0%	588 18.7%	1,704 54.1%	244 7.8%	610 19.4%	1 0.0%
ファミリーホーム児	829 100.0%	164 19.8%	218 26.3%	108 13.0%	336 40.5%	3 0.4%
援助ホーム児	376 100.0%	76 20.2%	55 14.6%	89 23.7%	155 41.2%	1 0.3%

次に家族との交流頻度であるが、「電話・手紙」において「年2回～11回」が高く、里親委託児で53.9%（前回52.8%）、養護施設児で61.6%（前回63.5%）、情緒障害児で54.7%（前回67.3%）、自立施設児で59.5%（前回51.7%）、乳児院児で48.4%（前回47.7%）、ファミリーホーム児で61.1%、援助ホーム児で59.6%であった。

また、「面会」において「月1回以上」が高かったのは乳児院児で51.7%（前回48.9%）であった。「年2回～11回」が高かったのは、里親委託児59.7%（前回62.3%）、養護施設児68.0%（前回68.5%）、情緒障害児61.0%（前回63.9%）、自立施設児64.3%（前回60.8%）、ファミリーホーム児59.6%、援助ホーム児60.0%であった。

さらに、「帰省」において「月1回以上」が高かったのは乳児院児で71.1%（前回61.2%）であった。「年2回～11回」が高かったのは、里親委託児56.5%（前回54.4%）、養護施設児71.9%（前回70.2%）、情緒障害児48.1%（前回45.4%）、自立施設児78.2%（前回72.2%）、ファミリーホーム児63.4%、援助ホーム児51.3%であった。

表 1 4-2 家族との交流頻度別児童数

	児 童 数							構成割合 (%)						
	里 親 委託児	養 護 施設児	情 緒 障害児	自 立 施設児	乳 児 院 児	ファミリ- ホーム児	援助 ホーム児	里 親 委託児	養 護 施設児	情 緒 障害児	自 立 施設児	乳 児 院 児	ファミリ- ホーム児	援助 ホーム児
【電話・手紙】														
総 数	241	3,864	106	237	244	108	89	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
月1回以上	36	912	41	77	105	19	27	14.9	23.6	38.7	32.5	43.0	17.6	30.3
年2回～11回	130	2,382	58	141	118	66	53	53.9	61.6	54.7	59.5	48.4	61.1	59.6
年1回ぐらい	74	562	7	19	21	22	9	30.7	14.5	6.6	8.0	8.6	20.4	10.1
不 詳	1	8	-	-	-	1	-	0.4	0.2	-	-	-	0.9	-
【面 会】														
総 数	655	6,935	259	420	1,704	218	55	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
月1回以上	104	1,404	75	120	881	44	14	15.9	20.2	29.0	28.6	51.7	20.2	25.5
年2回～11回	391	4,717	158	270	732	130	33	59.7	68.0	61.0	64.3	43.0	59.6	60.0
年1回ぐらい	158	807	25	30	90	44	8	24.1	11.6	9.7	7.1	5.3	20.2	14.5
不 詳	2	7	1	-	1	-	-	0.3	0.1	0.4	-	0.1	-	-
【帰 省】														
総 数	336	13,772	684	832	588	164	76	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
月1回以上	113	3,160	324	132	418	46	29	33.6	22.9	47.4	15.9	71.1	28.0	38.2
年2回～11回	190	9,906	329	651	160	104	39	56.5	71.9	48.1	78.2	27.2	63.4	51.3
年1回ぐらい	33	689	31	47	9	14	8	9.8	5.0	4.5	5.6	1.5	8.5	10.5
不 詳	-	17	-	2	1	-	-	-	0.1	-	0.2	0.2	-	-

2 児童の今後の見通し

児童の今後の見通しについては、里親委託児では「自立まで現在の里親家庭で養育」が68.5%（前回60.9%）に対し、「保護者のもとへ復帰」は10.7%（前回13.8%）にすぎない。養護施設児では「自立まで現在の児童養護施設で養育」が55.1%（前回55.1%）、情緒障害児では「保護者のもとへ復帰」が44.3%（前回52.4%）、自立施設児では「保護者のもとへ復帰」が59.7%（前回61.0%）、ファミリーホーム児では「自立まで現在のファミリーホームで養育」が70.0%、援助ホーム児では「自立まで現在の自立援助ホームで養育」が80.6%が最も高くなっている。

また、乳児院児では「現在の乳児院で養育」が42.1%（前回34.1%）と最も高くなっている。

表 1 5-1 児童の今後の見通し別児童数（乳児院児除く）

	総 数	保護者 のもと へ復帰	親類等の 家庭への 引き取り	自立まで 現在のまま で 養 育	養子縁組 又は里親・ ファミリ-ホーム委託	現 在 の ままでは 養育困難	その他	不 詳
里親委託児	4,534	485	55	3,105	578	112	191	8
	100.0%	10.7%	1.2%	68.5%	12.7%	2.5%	4.2%	0.2%
養護施設児	29,979	8,328	499	16,522	395	2,420	1,756	59
	100.0%	27.8%	1.7%	55.1%	1.3%	8.1%	5.9%	0.2%
情緒障害児	1,235	547	11	238	14	96	327	2
	100.0%	44.3%	0.9%	19.3%	1.1%	7.8%	26.5%	0.2%
自立施設児	1,670	997	32	206	38	53	337	7
	100.0%	59.7%	1.9%	12.3%	2.3%	3.2%	20.2%	0.4%
ファミリーホーム児	829	158	5	580	5	31	43	7
	100.0%	19.1%	0.6%	70.0%	0.6%	3.7%	5.2%	0.8%
援助ホーム児	376	24	3	303	1	23	19	3
	100.0%	6.4%	0.8%	80.6%	0.3%	6.1%	5.1%	0.8%

表 1 5-2 児童の今後の見通し別児童数（乳児院児）

	総 数	保護者 のもと へ復帰	親類等の 家庭への 引き取り	現在の 乳児院 で養育	児童養護 施 設 へ	母子生活 支援施設へ	養子縁組 又は里親 委 託	その他	不 詳
乳児院児	3,147	736	29	1,324	621	5	266	155	11
	100.0%	23.4%	0.9%	42.1%	19.7%	0.2%	8.5%	4.9%	0.3%

IV 里親家庭の状況

1 里親申込みの動機

調査日（平成 25 年 2 月 1 日）現在で、現に委託されている里親家庭の総数は 3,481 世帯となっており、前回調査の 2,626 世帯より 855 世帯（32.6%）増加している。

里親申込みの動機別をみると「児童福祉への理解から」が 43.5%（前回 37.1%）、「子どもを育てたいから」が 30.7%（前回 31.4%）、「養子を得たいため」が 12.5%（前回 21.8%）となっている。前回調査と比較すると、「養子を得たいため」の割合が下がり、「児童福祉への理解から」の割合が上がっている。

表 16 里親申込みの動機別里親家庭数

総数	児童福祉への理解から	子どもを育てたいから	養子を得たいため	その他	不詳
3,481	1,515	1,069	434	428	35
100.0%	43.5%	30.7%	12.5%	12.3%	1.0%

2 登録期間

児童が委託されている里親家庭の登録期間は、「5年未満」が 43.6%（前回 46.5%）と最も多く、以下、登録期間が長くなるに従い減っていくが、「15年以上」も 17.2%（前回 15.8%）ある。

表 17 登録期間別里親家庭数

総数	5年未満	5年～9年	10年～14年	15年以上	不詳
3,481	1,517	931	433	600	-
100.0%	43.6%	26.7%	12.4%	17.2%	-

3 委託児童数

委託児童数は、「1人」が 74.3%（前回 51.8%）と最も多く、「2人」が 19.1%（前回 25.0%）、「3人」が 5.1%（前回 11.1%）、「4人」が 1.5%（前回 5.7%）となっている。

表 18 委託児童別里親家庭数

総数	1人	2人	3人	4人	不詳
3,481	2,585	666	176	53	1
100.0%	74.3%	19.1%	5.1%	1.5%	0.0%

4 里親の年齢

里親の年齢は「50 歳代」（里父・里母合わせて 31.9%）が最も多く、「60 歳以上」（里父・里母合わせて 29.6%）がこれに次いでいる。

なお、前回調査と比べると「50 歳代」〔里父（前回 39.0%）・里母（前回 38.0%）〕が減少し、「60 歳以上」〔里父（前回 23.6%）、里母（前回 20.5%）〕が増加している。

表 19 里親の年齢別里親家庭数

	総数	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	いない	不詳
里父	3,481 100.0%	14 0.4%	207 5.9%	712 20.5%	1,070 30.7%	1,093 31.4%	382 11.0%	3 0.1%
里母	3,481 100.0%	26 0.7%	251 7.2%	1,010 29.0%	1,151 33.1%	966 27.8%	75 2.2%	2 0.1%

5 里親の仕事の種類

就業している里親の仕事の種類は、「専門・技術」が 18.6%（前回 19.2%）と最も多く、次いで「事務」が 11.0%（前回 12.8%）、「宗教家」が 10.7%（前回 10.3%）となっている。

表 20 仕事の種類別里親家庭数

総数	社会福祉事業従事者	宗教家	教員	専門・技術	管理	事務	販売	農林・漁業	単純労働	サービス	その他の就業者	不詳
3,481 100.0%	221 6.3%	371 10.7%	100 2.9%	648 18.6%	185 5.3%	383 11.0%	192 5.5%	134 3.8%	181 5.2%	254 7.3%	480 13.8%	332 9.5%

6 里親家庭の年間所得

里親家庭の平成 24 年年間所得（税込）は表 21 のとおり、一般家庭と比較してみると、「平均所得金額」は里親家庭で 591 万 8 千円、一般家庭で 537 万 2 千円となっている。

表 21 年間所得（税込）

	平均所得金額	回答世帯数
里親家庭	591.8万円	3,481世帯
一般家庭	537.2万円	50,112千世帯

注）一般家庭は「平成25年国民生活基礎調査」

7 里親家庭の住宅所有状況

里親家庭の住宅所有状況は、「自家・一戸建て」が 72.8%（前回 75.8%）と多くを占めており、次いで「借家・集合住宅」が 7.8%（前回 5.0%）、「自家・集合住宅」が 7.4%（前回 6.7%）、「借家・一戸建て」が 5.4%（前回 6.4%）となっている。

表 22 住宅の所有状況別里親家庭数

総数	自家		借家					間借	その他	不明	不詳
	一戸建て	集合住宅	一戸建て	集合住宅	公営住宅	公社・UR住宅	給与住宅				
3,481 100.0%	2,535 72.8%	257 7.4%	187 5.4%	272 7.8%	113 3.2%	12 0.3%	31 0.9%	4 0.1%	48 1.4%	4 0.1%	18 0.5%

V 母子生活支援施設入所世帯（母親）の状況

1 児童数

調査日（平成 25 年 2 月 1 日）現在における母子生活支援施設入所世帯数は 3,725 世帯となっており、前回調査の 4,056 世帯より 331 世帯（8.2%）減少している。母子生活支援施設入所世帯を児童数別にみると、「1 人」が 56.8%（前回 55.4%）と最も多く、次いで「2 人」が 29.8%（前回 31.2%）となっている。

表 2 3 児童数別母子生活支援施設入所世帯数

総 数	1 人	2 人	3 人	4 人以上	不 詳
3,725	2,115	1,109	379	122	-
100.0%	56.8%	29.8%	10.2%	3.3%	-

2 入所理由及び在所期間

(1) 入所理由

母子生活支援施設への入所理由は、「配偶者からの暴力」が 45.7%（前回 40.8%）で最も多く、次いで「経済的理由による」が 18.7%（前回 24.6%）、「住宅事情による」が 15.9%（前回 15.3%）となっている。

表 2 4 入所理由別母子生活支援施設入所世帯数

総 数	入所前の家庭 内環境の不適 切による	母親の心 身の不安 定による	職業上 の理由 による	住宅事情 による	経済的 理由に よる	配偶者 からの 暴 力	その他	不 詳
3,725	323	139	10	594	696	1,702	178	83
100.0%	8.7%	3.7%	0.3%	15.9%	18.7%	45.7%	4.8%	2.2%

(2) 在所期間

母子生活支援施設へ入所してからの期間は、「5 年未満」が 85.7%（前回 83.6%）と大部分を占め、「5 年未満」の中でも「1 年未満」が 37.9%（前回 33.2%）、「1 年」が 21.9%（前回 22.2%）となっている。

表 2 5 在所期間別母子生活支援施設入所世帯数

総 数	5年未満	1年未満	1年	2年	3年	4年	5年～9年	10年以上	不 詳
3,725	3,191	1,412	816	480	305	178	389	116	29
100.0%	85.7%	37.9%	21.9%	12.9%	8.2%	4.8%	10.4%	3.1%	0.8%

3 入所時の年齢

母子生活支援施設入所世帯の入所時の母親の年齢は、30 歳代が 43.7%（前回 50.7%）と最も多く、次いで 40 歳代が 28.5%（前回 16.9%）、20 歳代が 21.9%（前回 29.4%）となっている。

表 2 6 入所時の年齢別母子生活支援施設入所世帯数

総 数	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	不 明
3,725	38	271	546	736	891	737	325	178	3
100.0%	1.0%	7.3%	14.7%	19.8%	23.9%	19.8%	8.7%	4.8%	0.1%

4 母子世帯になった理由

母子世帯になった理由は、「離婚」が58.3%（前回61.5%）と最も多く、次いで「未婚の母」が14.5%（前回13.1%）となっている。

表27 母子世帯になった理由別母子生活支援施設入所世帯数

総数	死別			離別	遺棄	生死不明	未婚の母	その他	不詳
	病死	交通事故死	その他						
3,725 100.0%	27 0.7%	1 0.0%	16 0.4%	2,171 58.3%	283 7.6%	6 0.2%	541 14.5%	653 17.5%	27 0.7%

5 年金等の受給状況

年金等の受給状況は、母子生活支援施設入所世帯の8割以上が「児童手当」83.3%（前回68.0%）を受給しており、次いで「児童扶養手当」を受給している世帯が76.0%（前回76.6%）と多いが、「国民年金」等の各種年金は全部を合計しても3.5%（前回3.2%）と1割にも満たない。

表28 年金等の受給状況別母子生活支援施設入所世帯数

総数	受給あり（重複回答）									受給なし
	国民年金			厚生年金 船員保険	共済年金 等	児童手当	児童扶養 手当	特別児童 扶養手当	その他	
	母子年金	遺族基礎 年金	その他							
3,725 100.0%	3 0.1%	27 0.7%	81 2.2%	18 0.5%	1 0.0%	3,103 83.3%	2,830 76.0%	125 3.4%	315 8.5%	391 10.5%

6 公営住宅入居希望の有無及び現在の状況

(1) 公営住宅入居希望

公営住宅入居希望は、母子生活支援施設入所世帯の51.8%（前回57.0%）と過半数を超えている。

表29 公営住宅入居希望の有無別母子生活支援施設入所世帯数

総数	あり	なし	わからない	不詳
3,725 100.0%	1,928 51.8%	762 20.5%	1,033 27.7%	2 0.1%

(2) 現在の状況

現在の状況は、「適当な住居さえあれば退所できる」が17.0%（前回24.0%）、「1年以内に退所の見込み」が16.1%（前回13.5%）、「3か月以内に退所の見込み」が12.7%（前回10.7%）、「末子が18歳になるまで退所困難」が9.3%（前回12.8%）となっている。

表30 現在の状況別母子生活支援施設入所世帯数

総数	3か月以内に 退所の見込み	1年以内に 退所の見込み	適当な住宅 さえあれば 退所できる	末子が18歳 になるまで 退所困難	その他	不詳
3,725 100.0%	474 12.7%	599 16.1%	632 17.0%	345 9.3%	1,648 44.2%	27 0.7%

7 従業上の地位及び仕事の種類

(1) 従業上の地位

母子生活支援施設の入所世帯の母親の66.1%（前回74.6%）は就業している。就業している母親では、「臨時・日雇・パート」が50.3%（前回53.5%）と最も多く、「常用勤労者」が13.6%（前回19.0%）となっている。また「不就業」については、33.5%（前回24.8%）となっている。

表3 1-1 従業上の地位別母子生活支援施設入所世帯数

総数	事業主	常用勤労者	臨時・日雇・パート	その他の就業	不就業	不明	不詳
3,725	8	506	1,875	72	1,248	16	-
100.0%	0.2%	13.6%	50.3%	1.9%	33.5%	0.4%	-

なお、不就業の理由であるが、「精神的・身体的障害がある」が22.1%（前回23.6%）と最も多く、次いで「条件にあった求人なし」が19.3%（前回24.9%）、「講習等で就業準備中」が18.0%（前回9.0%）となっている。

表3 1-2 不就業の理由別母子生活支援施設入所世帯数

総数	講習等で就業準備中	保育が確保できない	乳児がいる	条件にあった求人なし	就業習慣がない	就業意欲が乏しい	疾病・虚弱である	精神的・身体的障害がある	児童に障害・疾病がある	不詳
1,248	225	129	56	241	31	70	150	276	43	27
100.0%	18.0%	10.3%	4.5%	19.3%	2.5%	5.6%	12.0%	22.1%	3.4%	2.2%

(2) 仕事の種類

就業している母親について仕事の種類をみると、「サービス業従事者」が28.5%（前回26.3%）と最も多く、次いで「技能工・生産工程作業員及び労務作業員」が19.7%（前回27.3%）、「専門的・技術的職業従事者」が15.1%（前回12.9%）となっている。

表3 2 仕事の種類別母子生活支援施設入所世帯数

総数	専門・技術	管理	事務	販売	農林・漁業	運輸・通信	技能・生産等	保安職業	サービス	その他就業者	不詳
2,477	373	6	335	207	8	17	487	7	706	283	48
100.0%	15.1%	0.2%	13.5%	8.4%	0.3%	0.7%	19.7%	0.3%	28.5%	11.4%	1.9%

注) 「不就業」を除く。

8 転職希望の有無

就業している母親のうち、転職を希望する母親は26.7%（前回28.1%）、転職希望のない母親は47.7%（前回48.6%）となっている。

表3 3 転職希望の有無別母子生活支援施設入所世帯数

総数	あり	なし	わからない	不詳
2,477	662	1,181	603	31
100.0%	26.7%	47.7%	24.3%	1.3%

注) 「不就業」を除く。

9 年間所得

母子生活支援施設入所世帯の平成 24 年の年間所得分布は、表 34 のとおりとなっている。「不明」を除いた分について「平均所得金額」をみると、172 万 3 千円（前回 174 万 5 千円）となっており、一般家庭の 537.2 万円（平成 25 年国民生活基礎調査）の 3 割程度に止まっている。

表 3 4 年間所得別母子生活支援施設入所世帯数

総 数	100万円 未 満	100～199 万 円	200～299 万 円	300～399 万 円	400万円 以 上	不 明	平均所得 金 額
3,725	612	1,316	955	168	32	642	172.3万円
100.0%	16.4%	35.3%	25.6%	4.5%	0.9%	17.2%	

注) 「平均所得金額」は総数から不明を除いて算出。

VI 児童養護施設の年長児童の状況

1 年長児童の就学状況

今回の調査に回答した中学3年生以上の年長児童は、8,412人であった。そのうち男子は4,417人(52.5%)、女子は3,951人(47.0%)、性別不詳が44人(0.5%)となっている。

また、就学状況別の年長児童数は、「中学3年生」は2,485人(29.5%)、「高校生」(通信制を含む)は5,642人(67.1%)である。

それ以外では、大学・短期大学には24人(0.3%)、専修学校には35人(0.4%)が、公共職業訓練校には15人(0.2%)が通っている。

表35 児童養護施設の年長児童の就学状況

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	大・短大	専修学	公職訓	その他	不詳
総数	8,412 100.0%	2,485 29.5%	39 0.5%	2,097 24.9%	1,817 21.6%	1,632 19.4%	40 0.5%	56 0.7%	22 0.3%	24 0.3%	35 0.4%	15 0.2%	106 1.3%	44 0.5%
男	4,417 52.5% [100.0]	1,361 [30.8%]	24 [0.5%]	1,075 [24.3%]	930 [21.1%]	848 [19.2%]	24 [0.5%]	19 [0.4%]	14 [0.3%]	16 [0.4%]	16 [0.4%]	12 [0.3%]	56 [1.3%]	22 [0.5%]
女	3,951 47.0% [100.0]	1,114 [28.2%]	15 [0.4%]	1,017 [25.7%]	882 [22.3%]	777 [19.7%]	15 [0.4%]	37 [0.9%]	7 [0.2%]	8 [0.2%]	19 [0.5%]	3 [0.1%]	48 [1.2%]	9 [0.2%]

注) 総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

総数欄の%つきの数字は、就学状況の構成割合。[]内の数字は、就学状況別構成割合。

2 児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動について質問(質問項目については参考を参照)した中で最も多く経験しているのは「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の92.7%(前回93.0%)でほとんどの児童が経験しており、逆に最も少ないのは「大勢で1人をいじめてしまったこと」の19.8%(前回25.0%)となっている。

男女間で差の大きな項目は、「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」で女子の経験が23.1ポイント男子より高くなっている。就学状況別で差の大きい項目は、「一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」、「アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」で中3から学年が高校高学年に進むに従って経験の割合が高くなっている。

「いじめ」に関しては、「大勢で1人をいじめてしまったこと」19.8%(前回25.0%)、「いじめを受けていたこと」34.7%(前回38.6%)であり、いじめた側は男子の比率が高く、いじめられる側は女子の比率が高い。

また、「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が30.7%(前回27.4%)であり、女子の経験が10.8ポイント男子より高い結果となっている。

表36 児童養護施設の年長児童の経験状況

	実数	ア. ネコの 世話	イ. 人を助 ける	ウ. やりと げる	エ. 旅行	オ. 赤ちゃん	カ. ボラン ティア	キ. 手続き	ク. 買う	ケ. アルバ イト	コ. 大勢で いじめ た	サ. いじめ を受け た	シ. 虐待を 受けた
総数	8,412	56.2%	76.3%	77.2%	22.0%	42.6%	67.5%	24.4%	92.7%	35.6%	19.8%	34.7%	30.7%
男	4,417	52.6%	73.9%	77.4%	24.4%	31.7%	67.1%	25.1%	90.5%	33.4%	20.6%	29.7%	25.6%
女	3,951	60.3%	79.1%	76.9%	19.2%	54.8%	67.8%	23.6%	95.3%	38.0%	18.9%	40.5%	36.4%
中3	2,485	56.7%	75.7%	77.1%	23.1%	41.4%	64.7%	9.9%	91.1%	2.7%	20.0%	32.6%	29.3%
高1	2,097	56.7%	74.9%	75.4%	19.5%	41.7%	67.8%	21.8%	92.5%	32.2%	19.5%	32.7%	30.3%
高2	1,817	57.2%	76.6%	76.7%	20.7%	43.4%	69.3%	28.2%	93.7%	49.6%	19.0%	35.8%	30.4%
高3・4	1,672	53.9%	78.7%	80.8%	24.0%	44.4%	69.4%	42.0%	94.4%	67.1%	19.9%	38.6%	31.9%
大・専・職	74	58.1%	79.7%	85.1%	29.7%	41.9%	71.6%	56.8%	97.3%	77.0%	25.7%	44.6%	36.5%
その他	223	54.3%	75.3%	67.7%	22.0%	45.3%	62.8%	35.0%	92.8%	68.6%	22.4%	38.1%	39.9%

注) 総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

(参考) 表36の全質問項目一覧

- 「ア. 犬、ネコなどや家畜などの世話をしたこと」
- 「イ. 困っている人を助けてあげたこと」
- 「ウ. 自分で決めた事(スポーツや勉強など)をやりとげ、よくやったなとうれしく思うこと」
- 「エ. 自分や友人たちと計画して、旅行したこと」
- 「オ. 赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」
- 「カ. ボランティアをしたこと」
- 「キ. 一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」
- 「ク. 自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」
- 「ケ. アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」
- 「コ. 大勢で1人をいじめてしまったこと」
- 「サ. いじめを受けていたこと」
- 「シ. 虐待を受けたこと」

3 大切なこと

大切なことと思うものについて、10項目(質問項目については参考を参照)の中から、3つを選び回答してもらった。単語自体には多義的なものも多いが、特に限定せず児童の判断に任せた。

最も選択率が高かったものは、「健康であること」の51.9%(前回53.2%)で、次いで「友達がたくさんいること」の44.8%(前回52.6%)、「将来に夢を持っていること」の43.2%(前回41.8%)となっている。

逆に、最も選択率の低かったものは、「人のいやがる事をすすんでやること」の7.3%(前回6.8%)で、次いで「勉強ができること」の13.7%(前回11.6%)、「勇気を持っていること」の19.9%(18.8%)となっている。男女ともに「人のいやがる事をすすんでやること」が最も選択されず、次いで「勉強ができること」、「勇気を持っていること」の順は男女とも同じである。

男女間で差の大きい項目は、「運動や歌などで、何か得意なもの(特技)があること」では男子が女子より8.5ポイント高いのに対し、「健康であること」では女子が7.7ポイント、「家族と仲良く生活すること」では女子が5.1ポイント、男子より高くなっている。

就学状況別で差の大きい項目は、中3から高校高学年に進むにつれ、「健康であること」及び「安定した仕事をする事」の割合が高くなっている。

表37 児童養護施設の年長児童の大切なこと(3つ選択)

	実数	1. 勉強	2. 家族	3. お金	4. 友達	5. 健康	6. 特技	7. 夢	8. すすんでやる	9. 勇気	10. 仕事
総数	8,412	13.7%	34.7%	23.5%	44.8%	51.9%	27.9%	43.2%	7.3%	19.9%	26.5%
男	4,417	14.4%	32.4%	23.9%	47.1%	48.3%	31.9%	43.2%	7.4%	18.7%	25.3%
女	3,951	13.0%	37.5%	23.0%	42.3%	56.0%	23.4%	43.3%	7.2%	21.3%	27.7%
中3	2,485	17.9%	40.8%	20.8%	44.5%	50.1%	27.4%	42.3%	6.8%	20.6%	21.9%
高1	2,097	14.0%	34.6%	23.8%	46.1%	51.2%	28.4%	43.9%	6.2%	19.7%	25.7%
高2	1,817	13.9%	30.8%	25.3%	44.0%	50.9%	29.8%	43.5%	8.1%	18.7%	30.8%
高3・4	1,672	7.5%	31.3%	24.5%	44.9%	56.2%	26.0%	44.5%	8.8%	20.7%	28.3%
大・専・職	74	14.9%	28.4%	18.9%	44.6%	58.1%	21.6%	40.5%	13.5%	21.6%	33.8%
その他	223	9.0%	29.1%	26.0%	43.9%	57.8%	27.4%	37.7%	4.5%	16.6%	32.7%

注) 総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

(参考) 表37の全質問項目一覧

- 「1. 勉強ができること」
- 「2. 家族と仲良く生活すること」
- 「3. お金がたくさんあること」
- 「4. 友達がたくさんいること」
- 「5. 健康であること」
- 「6. 運動や歌などで、何か得意なもの(特技)があること」
- 「7. 将来に夢を持っていること」
- 「8. 人のいやがる事をすすんでやること」
- 「9. 勇気を持っていること」
- 「10. 安定した仕事をする事」

4 高等学校(各種学校)進学希望

中学3年生の高等学校又は各種学校への進学希望については、「希望する」が85.0%(前回84.5%)、「考えていない」が8.4%(前回8.3%)、「希望しない」が5.2%(前回5.8%)となっている。進学を希望する児童において、男子に比べて女子が2.7ポイント高い結果となっている。

表38 児童養護施設の年長児童の高等学校(各種学校)進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない	不詳
中学3年生	2,485	85.0%	8.4%	5.2%	1.4%
男	1,361	83.8%	9.0%	5.6%	1.7%
女	1,114	86.5%	7.8%	4.8%	0.9%

注) 総数には、性別不詳を含む。

5 大学(短大)進学希望

中学3年生以上の年長児童全員の大学又は短期大学への進学希望については、「希望する」が27.0%(前回25.7%)、「考えていない」が30.1%(前回28.1%)、「希望しない」が37.2%(前回40.7%)となっており、前回調査より進学希望が増加している。性別では、高等学校(各種学校)同様、女子の方が男子に比べ8.2ポイント進学の希望が高い。

表39 児童養護施設の年長児童の大学(短大)進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない	不詳
総数	8,412	27.0%	30.1%	37.2%	5.7%
男	4,417	23.2%	32.0%	38.8%	6.0%
女	3,951	31.4%	28.1%	35.4%	5.2%
中3	2,485	29.5%	38.7%	28.4%	3.4%
高1	2,097	27.0%	31.7%	36.8%	4.5%
高2	1,817	25.4%	25.9%	42.1%	6.6%
高3・4	1,672	26.0%	20.2%	45.6%	8.3%
大・専・職	74	32.4%	23.0%	21.6%	23.0%
その他	223	18.8%	40.8%	33.2%	7.2%

注) 総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

6 将来の希望（1）－職業－

将来やりたい職業について、「会社や役所に勤める」、「工場に勤める」、「商店・デパート等に勤める」、「農業・漁業・林業・酪農など」、「学校の先生や保育士・看護師など」、「自動車・電車などの運転手及び船乗り・パイロットなど」、「美容師・理容師」、「スポーツ・芸能・芸術」、「警察・消防・自衛官」、「大工・建設業」、「新聞記者・アナウンサー」、「医者・弁護士」などの項目の中から1つを選択した結果が、次の表40である。

男子では、「工場に勤める」9.6%（前回11.8%）、「スポーツ・芸能・芸術」8.9%（前回12.1%）、「飲食業・調理等」8.0%（前回8.0%）が上位を占めている。

女子では、「学校の先生や保育士・看護師など」18.9%（前回20.9%）、「飲食業・調理等」11.2%（前回9.3%）「スポーツ・芸能・芸術」6.4%（前回8.4%）が上位を占めている。

表40 児童養護施設の年長児童の将来の希望（職業）

	実数	会社や役所に勤める	工場に勤める	商店・デパートに勤める	農業・漁業・林業・酪農等	先生・保育士・看護師等	運転手・船乗り・パイロット等	美容師・理容師	飲食業・調理等	スポーツ・芸能・芸術	警察・消防・自衛官	大工・建設業	新聞記者・アナウンサー	医者・弁護士	その他	未決
総数	8,412	4.4%	6.0%	3.4%	1.9%	12.1%	2.0%	3.6%	9.5%	7.8%	2.6%	4.3%	0.2%	1.1%	13.0%	20.9%
中3	2,485	4.2%	4.4%	2.7%	2.4%	11.6%	2.2%	3.6%	9.7%	10.4%	2.5%	4.9%	0.2%	1.0%	11.6%	21.7%
高1	2,097	4.6%	4.2%	3.4%	1.5%	11.2%	2.2%	4.1%	8.3%	6.9%	2.5%	4.2%	0.1%	1.2%	11.7%	26.4%
高2	1,817	4.2%	7.4%	4.2%	2.2%	12.0%	1.9%	3.4%	8.6%	7.0%	3.0%	3.1%	0.2%	1.1%	13.7%	21.0%
高3・4	1,672	4.9%	9.0%	3.8%	1.4%	13.9%	1.7%	3.5%	11.2%	6.0%	2.6%	4.5%	-	0.9%	16.3%	12.6%
大・専・職	74	5.4%	1.4%	1.4%	2.7%	20.3%	-	1.4%	8.1%	6.8%	-	5.4%	-	4.1%	17.6%	18.9%
その他	223	3.1%	6.3%	2.7%	1.3%	11.2%	1.3%	3.6%	13.0%	6.3%	2.2%	5.4%	0.4%	0.4%	10.8%	24.2%
男	4,417	5.5%	9.6%	2.2%	2.9%	6.0%	3.6%	1.8%	8.0%	8.9%	4.2%	7.8%	0.2%	1.0%	10.2%	21.6%
中3	1,361	5.5%	7.9%	2.1%	3.7%	3.6%	3.8%	0.7%	8.0%	12.4%	4.0%	8.7%	0.4%	0.7%	9.4%	23.6%
高1	1,075	5.8%	7.6%	2.0%	2.1%	5.5%	3.9%	2.2%	7.9%	6.9%	4.0%	8.0%	0.1%	0.9%	7.7%	28.7%
高2	930	4.9%	12.0%	2.9%	3.4%	6.8%	3.7%	2.3%	6.0%	8.4%	4.8%	5.6%	0.2%	1.1%	11.1%	19.8%
高3・4	872	5.5%	13.2%	2.1%	1.9%	9.3%	3.0%	2.3%	9.2%	7.1%	4.4%	8.0%	-	0.9%	13.9%	12.0%
大・専・職	44	6.8%	2.3%	-	4.5%	11.4%	-	-	6.8%	6.8%	-	9.1%	-	2.3%	15.9%	22.7%
その他	113	3.5%	7.1%	1.8%	2.7%	7.1%	1.8%	3.5%	14.2%	7.1%	3.5%	10.6%	-	0.9%	8.8%	21.2%
女	3,951	3.3%	1.9%	4.8%	0.8%	18.9%	0.2%	5.7%	11.2%	6.4%	0.8%	0.4%	0.1%	1.2%	16.1%	20.0%
中3	1,114	2.6%	0.3%	3.6%	0.8%	21.4%	0.2%	7.1%	11.8%	8.0%	0.5%	0.4%	-	1.3%	14.4%	19.5%
高1	1,017	3.4%	0.7%	4.8%	0.9%	17.3%	0.3%	6.2%	8.8%	6.8%	1.0%	0.2%	0.2%	1.5%	16.0%	23.9%
高2	882	3.4%	2.6%	5.6%	0.9%	17.5%	0.1%	4.5%	11.2%	5.7%	1.1%	0.5%	0.2%	1.1%	16.6%	22.1%
高3・4	792	4.3%	4.5%	5.8%	0.9%	18.9%	0.3%	4.9%	13.4%	4.7%	0.6%	0.8%	-	0.9%	18.8%	12.9%
大・専・職	30	3.3%	-	3.3%	-	33.3%	-	3.3%	10.0%	6.7%	-	-	-	6.7%	20.0%	13.3%
その他	107	2.8%	5.6%	3.7%	-	15.9%	0.9%	3.7%	11.2%	5.6%	0.9%	-	0.9%	-	12.1%	28.0%

注) 総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

7 将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－

もとの家庭への復帰希望、結婚への願望、施設から出て自活する自信の有無については、もとの家庭へ復帰したいと答えた児童は、全体で34.4%（前回37.7%）であるが、14歳では47.4%（前回45.2%）、15歳では43.0%（前回45.8%）が希望しており、その後は年齢が高くなるとともに減少している。

結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は、41.8%（前回42.0%）であり、年齢が高くなるとともに増加している。

施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は、29.1%（前回31.3%）となっており、特に性別による差が大きく、男子が32.6%（前回36.7%）に対して、女子は25.2%（前回25.6%）となっている。

なお、「家庭復帰希望」「自立生活への自信」の項目に関しては、平成4年の調査以来減少の傾向を示している。

（「家庭復帰希望」：47.0% → 41.9% → 38.4% → 37.7% → 34.4%）

（「自立生活への自信」：36.6% → 33.5% → 31.5% → 31.3% → 29.1%）

※ [H4.12 調査 → H10.2 調査 → H15.2 調査 → H20.2 調査 → H25.2 調査]

表4-1 児童養護施設の年長児童の将来の希望（家庭復帰、結婚、自立）

	実数	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
総数	8,412	34.4%	41.8%	29.1%
男	4,417	32.8%	41.0%	32.6%
女	3,951	36.1%	42.8%	25.2%
14歳	331	47.4%	39.9%	27.2%
15歳	2,404	43.0%	38.4%	31.4%
16歳	2,078	34.7%	40.7%	28.0%
17歳	1,816	29.0%	44.0%	28.1%
18歳以上	1,595	24.1%	46.4%	28.1%

注）総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

8 友人関係

友人関係について、「親身になってくれるともだちがいますか」という質問に対して、「いる」という回答をした年長児童は64.5%（前回63.1%）、「いない」は6.8%（前回7.3%）、「わからない」は26.8%（前回27.5%）であった。

表4-2 児童養護施設の年長児童の友人関係

	実数	いる	いない	わからない	不詳
総数	8,412	64.5%	6.8%	26.8%	1.9%
男	4,417	61.5%	7.6%	28.6%	2.2%
女	3,951	67.7%	6.0%	24.8%	1.5%
14歳	331	60.7%	6.3%	29.9%	3.0%
15歳	2,404	62.9%	7.0%	27.5%	2.5%
16歳	2,078	63.3%	6.8%	28.0%	1.9%
17歳	1,816	64.5%	7.0%	27.5%	1.0%
18歳以上	1,595	69.2%	6.8%	22.4%	1.6%

注）総数には、性別不詳、年齢不詳を含む。

Ⅶ 児童自立支援施設の年長児童の状況

1 年長児童の就学状況

今回の調査に回答した年長児童数は、810人であった。そのうち男子は543人(67.0%)、女子は267人(33.0%)となっている。

また、就学状況別の年長児童数は、「中学3年生」が最も多く、660人(81.5%)となっている。

表4-3 児童自立支援施設の年長児童の就学状況

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	大・短大	専修学	公職訓	その他	不詳
総数	810 100.0%	660 81.5%	72 8.9%	22 2.7%	20 2.5%	18 2.2%	1 0.1%	6 0.7%	-	-	-	4 0.5%	7 0.9%	-
男	543 67.0% [100.0]	451 [83.1%]	36 [6.6%]	15 [2.8%]	16 [2.9%]	15 [2.8%]	1 [0.2%]	4 [0.7%]	-	-	-	3 [0.6%]	2 [0.4%]	-
女	267 33.0% [100.0]	209 [78.3%]	36 [13.5%]	7 [2.6%]	4 [1.5%]	3 [1.1%]	-	2 [0.7%]	-	-	-	1 [0.4%]	5 [1.9%]	-

注) 総数欄の%つきの数字は、就学状況の構成割合。[]内の数字は、就学状況別構成割合。

2 児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動として、児童養護施設と同様の項目で、それぞれについての経験の有無を聞いた。(質問項目については、参考を参照)

全項目中で最も多く経験しているのは「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の92.0%(前回92.0%)で、ほとんどの児童が経験しており、逆に少ないのは「一人で銀行や役所(区役所・市役所・町役場等)などで、手続きをしたこと」で16.5%(前回21.3%)の児童しか経験がない。

男女間で差の大きな項目は、「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」であり、女子が男子に比べて22.5ポイント高くなっている。

「いじめ」に関しては、「大勢で1人をいじめてしまったこと」39.8%(前回44.6%)、「いじめを受けていたこと」が38.1%(前回43.2%)であり、いずれの項目についても、女子の比率が高い。

また、「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の28.3%(前回31.2%)であり、女子が男子より18.7ポイント高い結果となっている。

表4-4 児童自立支援施設の年長児童の経験状況

	実数	ア. ネコの 世話	イ. 人を助 ける	ウ. やりと げる	エ. 旅行	オ. 赤ちゃん	カ. ボラン ティア	キ. 手続き	ク. 買う	ケ. アルバ イト	コ. 大勢で いじめ た	サ. いじめ を受け た	シ. 虐待を 受けた
総数	810	74.2%	77.7%	80.0%	30.9%	53.5%	57.3%	16.5%	92.0%	17.8%	39.8%	38.1%	28.3%
男	543	70.7%	76.4%	81.6%	30.9%	46.0%	56.7%	14.2%	91.3%	15.3%	36.8%	34.6%	22.1%
女	267	81.3%	80.1%	76.8%	30.7%	68.5%	58.4%	21.3%	93.3%	22.8%	45.7%	45.3%	40.8%
中3	660	75.0%	78.0%	82.0%	32.7%	53.9%	56.2%	12.4%	92.4%	12.9%	40.2%	34.8%	25.8%
中学卒業	72	76.4%	73.6%	69.4%	26.4%	52.8%	61.1%	29.2%	93.1%	33.3%	47.2%	51.4%	37.5%
高校生等	78	65.4%	78.2%	73.1%	19.2%	50.0%	62.8%	39.7%	87.2%	44.9%	29.5%	53.8%	41.0%

(参考) 表4-4の全質問項目一覧

「ア. 犬、ネコなどや家畜などの世話をしたこと」

「イ. 困っている人を助けてあげたこと」

「ウ. 自分で決めた事(スポーツや勉強など)をやりとげ、よくやったなとうれしく思うこと」

「エ. 自分や友人たちと計画して、旅行したこと」

- 「オ. 赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」
- 「カ. ボランティアをしたこと」
- 「キ. 一人で銀行や役所（区役所・市役所・町役場等）などで、手続きをしたこと」
- 「ク. 自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」
- 「ケ. アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」
- 「コ. 大勢で1人をいじめてしまったこと」
- 「サ. いじめを受けていたこと」
- 「シ. 虐待を受けたこと」

3 大切なこと

児童養護施設と同様に、大切なことと思うものについて3つを選び回答してもらった。（質問項目については参考を参照）

最も選択率の高かったものは、「家族と仲良く生活すること」の62.8%（前回60.3%）で、次いで「友達がたくさんいること」の48.1%（前回50.9%）、「健康であること」の48.0%（前回45.1%）となっている。

逆に、最も選択率の低かったものは、「人のいやがる事をすすんでやること」の8.5%（前回9.2%）で、次いで「勉強ができること」の10.5%（前回7.3%）となっている。

男女間で差の大きい項目は、「将来に夢を持っていること」で男子が女子より10.0ポイント高いのに対し、「お金がたくさんあること」で女子が13.4ポイント、「家族と仲良く生活すること」で女子が7.4ポイント、男子より高くなっている。

表45 児童自立支援施設の年長児童の大切なこと（3つ選択）

	実数	1. 勉強	2. 家族	3. お金	4. 友達	5. 健康	6. 特技	7. 夢	8. すすんでやる	9. 勇気	10. 仕事
総数	810	10.5%	62.8%	18.0%	48.1%	48.0%	18.0%	35.9%	8.5%	20.6%	25.9%
男	543	10.9%	60.4%	13.6%	48.8%	47.3%	20.8%	39.2%	10.3%	21.0%	23.6%
女	267	9.7%	67.8%	27.0%	46.8%	49.4%	12.4%	29.2%	4.9%	19.9%	30.7%
中3	660	10.9%	66.4%	18.2%	48.9%	46.7%	17.7%	35.6%	8.3%	19.8%	23.9%
中学卒業	72	6.9%	56.9%	19.4%	36.1%	58.3%	13.9%	31.9%	5.6%	26.4%	40.3%
高校生等	78	10.3%	38.5%	15.4%	52.6%	50.0%	24.4%	42.3%	12.8%	21.8%	29.5%

（参考）表45の全質問項目一覧

- 「1. 勉強ができること」
- 「2. 家族と仲良く生活すること」
- 「3. お金がたくさんあること」
- 「4. 友達がたくさんいること」
- 「5. 健康であること」
- 「6. 運動や歌などで、何か得意なもの（特技）があること」
- 「7. 将来に夢を持っていること」
- 「8. 人のいやがる事をすすんでやること」
- 「9. 勇気を持っていること」
- 「10. 安定した仕事をする事」

4 高等学校（各種学校）進学希望

中学3年生の高等学校または各種学校への進学希望については、「希望する」が83.2%(前回77.4%)、「考えていない」が6.5%(前回7.2%)、「希望しない」が9.2%(前回14.9%)となっており、前回調査に比べ進学希望が増加している。

性別では、女子が男子に比べ進学希望が2.2ポイント高い。

表46 児童自立支援施設の年長児童の高等学校（各種学校）進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない	不詳
中学3年生	660	83.2%	6.5%	9.2%	1.1%
男	451	82.5%	6.9%	9.5%	1.1%
女	209	84.7%	5.7%	8.6%	1.0%

5 大学（短大）進学希望

中学3年生以上の年長児童全員の大学または短期大学への進学希望については、「希望する」が25.2%(前回23.5%)、「考えていない」が37.0%(前回33.1%)、「希望しない」が34.1%(前回41.5%)となっており、前回調査より進学希望が増加している。

性別では高等学校（各種学校）同様、女子が男子に比べ進学希望が5.4ポイント高い。

表47 児童自立支援施設の年長児童の大学（短大）進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない	不詳
総数	810	25.2%	37.0%	34.1%	3.7%
男	543	23.4%	38.9%	34.6%	3.1%
女	267	28.8%	33.3%	33.0%	4.9%
中3	660	25.8%	38.2%	32.9%	3.2%
中学卒業	72	22.2%	31.9%	44.4%	1.4%
高校生等	78	23.1%	32.1%	34.6%	10.3%

6 将来の希望(1)－職業－

男子では、「大工・建設業」18.0%(前回19.6%)、「スポーツ・芸能・芸術」8.8%(前回8.9%)、「飲食業・調理等」7.6%(前回8.3%)が上位を占めている。女子では、「学校の先生や保育士・看護師など」17.6%(前回17.1%)、「美容師・理容師」12.0%(前回10.3%)、「飲食業・調理等」8.6%(前回8.0%)が上位を占めている。

女子の希望で男子と異なる特徴は、「美容師・理容師」、「学校の先生や保育士・看護師など」、「商店・デパート等に勤める」の割合が高くなっており、「大工・建設業」、「農業・漁業・林業・酪農等」、「工場に勤める」の割合が低くなっている。

表 4 8 児童自立支援施設の年長児童の将来の希望（職業）

	実数	会社や 役所に 勤める	工場に 勤める	商店・デ パートに 勤める	農業・ 漁業・ 林業・ 酪農等	先生・ 保育士・ 看護師等	運転手・ 船乗り・ パイロット等	美容師・ 理容師	飲食業・ 調理等	スポー ツ・芸 能・芸術	警察・ 消防・ 自衛官	大工・ 建築業	新聞 記者・ アナウン サー	医者・ 弁護士	その他	未決
総数	810	2.5%	4.3%	2.8%	3.5%	9.1%	3.8%	5.9%	7.9%	8.5%	2.6%	12.7%	-	0.5%	11.1%	16.4%
中3	660	2.4%	4.1%	2.3%	3.2%	9.4%	3.8%	6.8%	7.4%	8.8%	2.4%	13.8%	-	0.6%	10.2%	16.1%
中学卒業	72	1.4%	8.3%	5.6%	2.8%	5.6%	2.8%	2.8%	9.7%	6.9%	1.4%	9.7%	-	-	19.4%	19.4%
高校生等	78	3.8%	2.6%	5.1%	6.4%	10.3%	5.1%	1.3%	10.3%	7.7%	5.1%	6.4%	-	-	11.5%	16.7%
男	543	2.8%	5.7%	1.8%	5.0%	5.0%	5.2%	2.9%	7.6%	8.8%	3.9%	18.0%	-	0.6%	9.4%	16.2%
中3	451	2.4%	5.5%	1.1%	4.4%	5.3%	5.1%	3.1%	7.3%	9.3%	3.5%	19.3%	-	0.7%	9.3%	16.0%
中学卒業	36	2.8%	11.1%	5.6%	5.6%	2.8%	5.6%	2.8%	8.3%	8.3%	2.8%	16.7%	-	-	11.1%	13.9%
高校生等	56	5.4%	3.6%	5.4%	8.9%	3.6%	5.4%	1.8%	8.9%	5.4%	7.1%	8.9%	-	-	8.9%	19.6%
女	267	1.9%	1.5%	4.9%	0.4%	17.6%	1.1%	12.0%	8.6%	7.9%	-	1.9%	-	0.4%	14.6%	16.9%
中3	209	2.4%	1.0%	4.8%	0.5%	18.2%	1.0%	14.8%	7.7%	7.7%	-	1.9%	-	0.5%	12.0%	16.3%
中学卒業	36	-	5.6%	5.6%	-	8.3%	-	2.8%	11.1%	5.6%	-	2.8%	-	-	27.8%	25.0%
高校生等	22	-	-	4.5%	-	27.3%	4.5%	-	13.6%	13.6%	-	-	-	-	18.2%	9.1%

7 将来の希望（2）－家庭復帰、結婚、自立－

もとの家庭への復帰希望、結婚への願望、施設から出て自活する自信の有無については、もとの家庭へ復帰したいと答えた児童は77.4%（前回74.7%）、結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は60.7%（前回54.1%）、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は53.8%（前回51.9%）となっている。

表 4 9 児童自立支援施設の年長児童の将来の希望（家庭復帰、結婚、自立）

	実数	家庭復帰	結婚したい	生活して いく自信
総数	810	77.4%	60.7%	53.8%
男	543	80.3%	58.6%	54.5%
女	267	71.5%	65.2%	52.4%
14歳	107	84.1%	57.9%	49.5%
15歳	553	82.6%	62.9%	59.9%
16歳	79	55.7%	54.4%	35.4%
17歳	35	42.9%	54.3%	25.7%
18歳以上	22	45.5%	59.1%	40.9%

注）総数には、年齢不詳を含む。

8 友人関係

友人関係について、「親身になってくれるともだちがいますか」という質問に対して、「いる」という回答をした年長児童は63.7%（前回60.8%）、「いない」は8.6%（前回10.9%）、「わからない」は26.3%（前回27.4%）であった。

表 5 0 児童自立支援施設の年長児童の友人関係

	実数	いる	いない	わからない	不詳
総数	810	63.7%	8.6%	26.3%	1.4%
男	543	62.4%	8.7%	27.4%	1.5%
女	267	66.3%	8.6%	24.0%	1.1%
14歳	107	58.9%	14.0%	24.3%	2.8%
15歳	553	64.9%	7.1%	26.9%	1.1%
16歳	79	59.5%	13.9%	25.3%	1.3%
17歳	35	65.7%	5.7%	28.6%	-
18歳以上	22	59.1%	9.1%	31.8%	-

注）総数には、年齢不詳を含む。

Ⅷ 自立援助ホームの児童の状況

1 児童の就学状況

今回の調査に回答した児童数は、349人であった。そのうち男子は168人(48.1%)、女子は180人(51.6%)となっている。就学状況別の児童数は、「中学卒業生」が最も多く、78人(22.3%)となっている。

なお、自立援助ホームについては、義務教育終了後の児童が入居するものであり、今回の調査に回答した者の全員が中学3年生以上の「年長児童」であるため、以下「児童」と表記する。

表5-1 自立援助ホームの児童の就学状況

	総数	中3	中学卒	高1	高2	高3	高4	通信制	高校卒	大・短大	専修学	公職訓	その他	不詳
総数	349 100.0%	-	78 22.3%	22 6.3%	24 6.9%	23 6.6%	5 1.4%	32 9.2%	27 7.7%	2 0.6%	6 1.7%	3 0.9%	113 32.4%	14 4.0%
男	168 48.1% [100.0%]	-	38 [22.6%]	12 [7.1%]	11 [6.5%]	1 [0.6%]	2 [1.2%]	19 [11.3%]	18 [10.7%]	1 [0.6%]	3 [1.8%]	3 [1.8%]	52 [31.0%]	8 [4.8%]
女	180 51.6% [100.0%]	-	40 [22.2%]	10 [5.6%]	13 [7.2%]	22 [12.2%]	3 [1.7%]	13 [7.2%]	9 [5.0%]	1 [0.6%]	3 [1.7%]	-	60 [33.3%]	6 [3.3%]

注) 総数には、性別不詳・学年不詳を含む。

総数欄の%つきの数字は、就学状況の構成割合。[]内の数字は、就学状況別構成割合。

2 児童の生活行動経験

思いやりの行動や社会的自立に関わる行動として、児童養護施設及び児童自立支援施設と同様の項目で、それぞれについての経験の有無を聞いた。(質問項目については、参考を参照)

全項目中で最も多く経験しているのは「自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」の91.1%で、ほとんどの児童が経験しており、逆に少ないのは「大勢で1人をいじめてしまったこと」で27.8%となっている。

男女間で差の大きな項目は、「赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」であり、女子が男子に比べて25.5ポイント高くなっている。

「いじめ」に関しては、「大勢で1人をいじめてしまったこと」27.8%、「いじめを受けていたこと」が51.0%となっている。

また、「虐待」に関しては、「虐待を受けたこと」が全体の54.7%であり、女子が男子より21.5ポイント高い結果となっている。

表5-2 自立援助ホームの児童の経験状況

	実数	ア. ネコの 世話	イ. 人を助 ける	ウ. やりと げる	エ. 旅行	オ. 赤ちゃん	カ. ボラン ティア	キ. 手続き	ク. 買う	ケ. アルバ イト	コ. 大勢で いじめ た	サ. いじめ を受け た	シ. 虐待を 受けた
総数	349	73.9%	77.7%	71.9%	36.7%	55.3%	69.3%	60.7%	91.1%	89.1%	27.8%	51.0%	54.7%
男	168	69.6%	75.6%	72.6%	40.5%	42.3%	69.6%	62.5%	85.1%	85.7%	31.5%	44.6%	43.5%
女	180	77.8%	79.4%	71.1%	33.3%	67.8%	68.9%	58.9%	97.2%	92.2%	23.9%	56.7%	65.0%
中学卒業	78	71.8%	70.5%	70.5%	39.7%	52.6%	70.5%	64.1%	91.0%	85.9%	29.5%	51.3%	56.4%
高1~4	74	73.0%	82.4%	79.7%	36.5%	63.5%	75.7%	54.1%	93.2%	91.9%	25.7%	43.2%	56.8%
その他	197	75.1%	78.7%	69.5%	35.5%	53.3%	66.5%	61.9%	90.4%	89.3%	27.9%	53.8%	53.3%

注) 総数には、性別不詳・年齢不詳を含む。

(参考) 表5-2の全質問項目一覧

「ア. 犬、ネコなどや家畜などの世話をしたこと」

「イ. 困っている人を助けてあげたこと」

- 「ウ. 自分で決めた事（スポーツや勉強など）をやりとげ、よくやったなとうれしく思うこと」
- 「エ. 自分や友人たちと計画して、旅行したこと」
- 「オ. 赤ちゃんをあやしたり、おむつの世話をしたこと」
- 「カ. ボランティアをしたこと」
- 「キ. 一人で銀行や役所（区役所・市役所・町役場等）などで、手続きをしたこと」
- 「ク. 自分の気に入った洋服や持ち物を選んで買ったこと」
- 「ケ. アルバイトやパートタイムの仕事をしたこと」
- 「コ. 大勢で1人をいじめてしまったこと」
- 「サ. いじめを受けていたこと」
- 「シ. 虐待を受けたこと」

3 大切なこと

児童養護施設及び児童自立支援施設と同様に、大切なことと思うものについて3つを選び回答してもらった。（質問項目については参考を参照）

最も選択率の高かったものは、「健康であること」の49.6%で、次いで「将来に夢を持っていること」の45.3%、「友達がたくさんいること」の38.4%となっている。

逆に、最も選択率の低かったものは、「人のいやがる事をすすんでやること」の7.4%で、次いで「勉強ができること」の8.3%となっている。

男女間で差の大きい項目は、「運動や歌などで、何か得意なもの（特技）があること」で男子が女子より8.8ポイント高いのに対し、「健康であること」では女子が11.0ポイント、「勇気を持っていること」では女子が6.0ポイント、男子より高くなっている。

表5.3 自立援助ホームの児童の大切なこと（3つ選択）

	実数	1. 勉強	2. 家族	3. お金	4. 友達	5. 健康	6. 特技	7. 夢	8. すすんでやる	9. 勇気	10. 仕事
総数	349	8.3%	27.2%	28.1%	38.4%	49.6%	26.6%	45.3%	7.4%	22.1%	38.1%
男	168	8.9%	26.2%	29.2%	41.7%	44.0%	31.0%	46.4%	10.7%	19.0%	37.5%
女	180	7.8%	28.3%	27.2%	35.0%	55.0%	22.2%	43.9%	4.4%	25.0%	38.9%
中学卒業	78	14.1%	24.4%	29.5%	25.6%	57.7%	24.4%	50.0%	5.1%	21.8%	37.2%
高1～4	74	8.1%	29.7%	21.6%	44.6%	50.0%	24.3%	51.4%	5.4%	29.7%	31.1%
その他	197	6.1%	27.4%	29.9%	41.1%	46.2%	28.4%	41.1%	9.1%	19.3%	41.1%

注) 総数には、性別不詳を含む。

(参考) 表5.3の全質問項目一覧

- 「1. 勉強ができること」
- 「2. 家族と仲良く生活すること」
- 「3. お金がたくさんあること」
- 「4. 友達がたくさんいること」
- 「5. 健康であること」
- 「6. 運動や歌などで、何か得意なもの（特技）があること」
- 「7. 将来に夢を持っていること」
- 「8. 人のいやがる事をすすんでやること」
- 「9. 勇気を持っていること」
- 「10. 安定した仕事をする事」

4 大学（短大）進学希望

児童の大学または短期大学への進学希望については、「希望する」が24.9%、「考えていない」が35.5%、「希望しない」が36.1%となっている。

性別では、女子が男子に比べ進学希望が5.8ポイント高い。

表5-4 自立援助ホームの児童の大学（短大）進学希望

	実数	希望する	考えていない	希望しない	不詳
総数	349	24.9%	35.5%	36.1%	3.4%
男	168	22.0%	42.3%	31.0%	4.8%
女	180	27.8%	29.4%	40.6%	2.2%
中学卒業	78	16.7%	37.2%	43.6%	2.6%
高1～4	74	35.1%	20.3%	39.2%	5.4%
その他	197	24.4%	40.6%	32.0%	3.0%

注) 総数には、性別不詳を含む。

5 将来の希望 (1) -職業-

男子では、「学校の先生や保育士・看護師など」10.1%、「飲食業・調理等」10.1%、「大工・建築業」8.9%が上位を占めている。女子では、「学校の先生や保育士・看護師など」11.1%、「美容師・理容師」8.3%、「飲食業・調理等」8.3%が上位を占めている。

女子の希望で男子と異なる特徴は、「美容師・理容師」の割合が高くなっており、「大工・建設業」の割合が低くなっている。

表5-5 自立援助ホームの児童の将来の希望（職業）

	実数	会社や 役所に 勤める	工場に 勤める	商店・デ パートに 勤める	農業・ 漁業・ 林業・ 酪農等	先生・ 保育士・ 看護師等	運転手・ 船乗り・ パイロット等	美容師・ 理容師	飲食業・ 調理等	スポー ツ・芸 能・芸術	警察・ 消防・ 自衛官	大工・ 建築業	新聞 記者・ アナウン サー	医者・ 弁護士	その他	未決
総数	349	2.3%	2.3%	0.9%	2.3%	10.6%	1.7%	6.6%	9.2%	6.0%	2.0%	4.6%	0.6%	1.1%	15.8%	26.4%
中学卒業	78	1.3%	5.1%	1.3%	1.3%	9.0%	-	5.1%	12.8%	3.8%	2.6%	5.1%	-	1.3%	9.0%	33.3%
高1～4	74	1.4%	2.7%	-	1.4%	8.1%	-	6.8%	8.1%	8.1%	1.4%	4.1%	1.4%	2.7%	20.3%	21.6%
その他	197	3.0%	1.0%	1.0%	3.0%	12.2%	3.0%	7.1%	8.1%	6.1%	2.0%	4.6%	0.5%	0.5%	16.8%	25.4%
男	168	3.0%	3.6%	-	3.0%	10.1%	3.0%	4.8%	10.1%	7.1%	2.4%	8.9%	0.6%	1.2%	13.7%	24.4%
中学卒業	38	-	5.3%	-	2.6%	10.5%	-	5.3%	13.2%	5.3%	-	10.5%	-	-	5.3%	36.8%
高1～4	26	3.8%	7.7%	-	3.8%	-	-	3.8%	11.5%	11.5%	-	7.7%	-	3.8%	11.5%	23.1%
その他	104	3.8%	1.9%	-	2.9%	12.5%	4.8%	4.8%	8.7%	6.7%	3.8%	8.7%	1.0%	1.0%	17.3%	20.2%
女	180	1.7%	1.1%	1.7%	1.7%	11.1%	0.6%	8.3%	8.3%	5.0%	1.7%	0.6%	0.6%	1.1%	17.8%	28.3%
中学卒業	40	2.5%	5.0%	2.5%	-	7.5%	-	5.0%	12.5%	2.5%	5.0%	-	-	2.5%	12.5%	30.0%
高1～4	48	-	-	-	-	12.5%	-	8.3%	6.3%	6.3%	2.1%	2.1%	2.1%	2.1%	25.0%	20.8%
その他	92	2.2%	-	2.2%	3.3%	12.0%	1.1%	9.8%	7.6%	5.4%	-	-	-	-	16.3%	31.5%

注) 総数には、性別不詳を含む。

6 将来の希望 (2) - 家庭復帰、結婚、自立 -

もとの家庭への復帰希望、結婚への願望、施設から出て自活する自信の有無については、もとの家庭へ復帰したいと答えた児童は16.9%、結婚して落ち着いた家庭を作りたいと答えた児童は52.7%、施設を出て、自分で生活することに自信があると答えた児童は33.0%となっている。

表56 自立援助ホームの児童の将来の希望 (家庭復帰、結婚、自立)

	実数	家庭復帰	結婚したい	生活していく自信
総数	349	16.9%	52.7%	33.0%
男	168	13.1%	48.8%	32.1%
女	180	20.6%	56.1%	33.3%
14歳	-	-	-	-
15歳	10	20.0%	50.0%	40.0%
16歳	58	15.5%	56.9%	32.8%
17歳	95	18.9%	51.6%	36.8%
18歳以上	171	15.8%	52.6%	31.0%

注) 総数には、性別不詳・年齢不詳を含む。

7 友人関係

友人関係について、「親身になってくれるともだちがいますか」という質問に対して、「いる」という回答をした児童は62.5%、「いない」は10.0%、「わからない」は26.4%であった。

表57 自立援助ホームの児童の友人関係

	実数	いる	いない	わからない	不詳
総数	349	62.5%	10.0%	26.4%	1.1%
男	168	61.9%	8.3%	28.0%	1.8%
女	180	62.8%	11.7%	25.0%	0.6%
14歳	-	-	-	-	-
15歳	10	60.0%	10.0%	30.0%	-
16歳	58	58.6%	6.9%	32.8%	1.7%
17歳	95	61.1%	11.6%	26.3%	1.1%
18歳以上	171	65.5%	9.4%	24.0%	1.2%

注) 総数には、性別不詳・年齢不詳を含む。